

21世紀教育活動・評価報告書

平成24年度

弘前大学21世紀教育センター

目 次

1	巻頭言（21世紀教育センター長 木村 宣美）	1
2	第13回弘前大学FDワークショップ	3
3	弘前大学高大連携シンポジウム テーマ「国際化とは何か？ー高校が望む国際化、大学を目指す国際化ー」	8
4	教育分担者としてのティーチング・アシスタント ー平成年度弘前大学TA研修会の報告を兼ねてー	13
5	21世紀教育に関する学生アンケート調査	16
	1) 平成24年度前期学生アンケート調査結果の概要	16
	2) 平成24年度後期学生アンケート調査結果の概要	23
6	21世紀教育授業実施結果	27
7	21世紀教育授業運営・担当評価	42
8	あとがき	47

学士課程教育の質的転換と組織的な取組み -プログラムとしての学士課程教育-

弘前大学 21 世紀教育センター長 木村宣美

『大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～』（文部科学省 平成 24(2012) 年 6 月）や『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）』（中央教育審議会 平成 24 年 8 月 28 日）では、将来の予測が困難な時代にあり、高等教育機関である大学には予測困難な次代を切り拓く人材の育成や学術研究の推進が期待されている。また、我が国の目指すべき社会像を、優れた知識やアイディアの積極的活用によって発展するとともに、人が人を支える安定的な成長を持続的に果たす成熟社会であると位置付け、このような社会において求められる能力は、答えのない問題に解を見出していくための批判的・合理的な思考力等の認知的能力、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う倫理的・社会的能力、総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力、想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養・知識・経験等、予測困難な時代において高等教育段階で培うことが求められる「学士力」（『学士課程教育の構築に向けて（答申）』（中央教育審議会 平成 20(2008) 年 12 月 24 日））であるとされている。このような「学士力」を育むことができるように、主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要であり、学修成果の把握（アセスメントテスト等）、実践的キャリア教育・職業教育の充実、欧米並みの水準で質を伴った「学修時間の飛躍的増加」が必要であるとされている。そして、質的転換の循環を作り出す始点としての学修時間の増加・確保が、「教育課程の体系化」（教育課程全体として、育成する能力・知識技術・技能と個々の授業科目の関連性の明示；科目ナンバリング等）、「組織的な教育の実施」（教員全体の主体的な参画により、教員間の連携と協力により教育を実施）、「授業計画（シラバス）の充実」（事前の準備や事後の展開等の指針、他の授業科目との関連性等、授業の行程表として機能するよう作成）、教員の教育力向上・学生の学修環境の整備等を進めるための「全学的な教学マネジメントの確立」の諸方策と共に進められることが必要であるとの提言がなされている。すなわち、教員中心の授業科目の編成から学位プログラムとして、組織的・体系的な教育課程への転換が求められている。

本学の教育理念と目標に沿い、学士課程教育及び大学院課程教育の充実を図るため、これらに伴い学内横断的に対処すべき諸課題に対処し、迅速かつ効率的な意思決定を行うことを目的に、弘前大学教育推進機構（以下、機構）が平成 24 年 7 月に設置された。機構は、教育推進機構会議・教育推進室・21 世紀教育センター・国際交流センター・学生就職支援センターで構成され、3 つのセンターの所掌する教育に係る事項について、連絡・調整及び協議を行うための連絡協議会が置かれている。機構には、機構長を補佐し、教育の改善及び充実に係る企画立案等を行う組織として教育推進室がある。教育推進室で企画・立案された教育の充実に係る事項は、教育に責任を負う各学部・研究科の副学部長・副研究科長をも委員とする教育推進機構会議で審議され、学士課程として教育改革に対応する環境が整備された。このような環境で、教育推進室会議における検討事項

で教育推進機構会議の議を経て、現在議論されているものに、例えば、1)科目ナンバリ
 ングの導入と 2) GPA 算出データの活用がある。GPA のデータは、①進級・卒業・退学の
 判定に用いる、②科目間の成績評価結果の標準化に用いる、③支援を必要としている学
 生の特定に用いるという用途で活用されているが、科目ナンバリングの導入と共に、本
 学における GPA 算出データの活用は、学生の修学を支援する試みであり、これらの取組
 みはいずれも、入学者受け入れ方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針に基
 づき、各学部・研究科の創意工夫が求められる事項である。また、『国立大学法人弘前大
 学平成 24 年度の業務運営に関する計画（年度計画）』の I 大学の教育研究等の質の向上
 に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措
 置（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置の「学生自身によ
 る学修に関する自己評価制度を導入する。」及び「授業の事前・事後学習を明示するなど、
 学生の自主的な学習を促し、単位制度の実質化を推進する。」を達成するために、21 世紀
 教育科目の導入科目（基礎ゼミナール）に、学習記録（ラーニング・ポートフォリオ）
 の作成を平成 25 年度に導入することとなった。これは、学生の能動的な学修（アクティ
 ブ・ラーニング）を支援し、促す試みの一環として位置付けられている。また、21 世紀
 教育科目のすべての授業科目の平均点及び 5 段階評価の割合を、教職員限定で閲覧可能
 となる環境を整備している。成績評価の標準化・平準化に向けた教員による議論を期待
 しての試みである。教員には「プログラムとしての学士課程教育」のコンセプトを理解
 し、大学教育の質的転換の担い手となることが期待されている。

2 第13回(平成24年度)弘前大学FDワークショップ

21世紀教育センター主催による第13回FDワークショップが、弘前大学創立50周年記念会館を会場に、6月9日、10日の2日間にわたり開催されました。今回のテーマは「大学準備講座ワークショップ」であり、学生主体の授業のあり方を考えながら、授業目標や成績評価の設計方法を議論し、模擬授業を通して授業方法の改善について研修することを趣旨に実施しました。参加者は就任5年以内の新任教員を中心に、他大学も含めて19名、さらに4名の学生の参加、ミニレクチャーの講師、21世紀教育センターの教員事務職員も合わせると、総勢39名となりました。

今回はミニレクチャーの後、各グループに分かれて作業を行い、各グループの議論の結果について、パワーポイントを使った発表と、その発表に対する質疑討論をセットにしたものを計3回(2日間)繰り返します。グループ作業では、仮想の授業設計により、授業目的、評価方法、授業実践の3つの基本的なことを体験します。また平成24年度ワークショップでは、模擬授業を行い、他の教員や学生が良かった点と改善すべき点を指摘するという作業を取り入れました。能動的な学習の実践をどのように進めれば良いか、教員と学生の相互交流を深めながら、効果的な授業作りを目指します。

中根教育担当理事による開会の挨拶の後、まずメンバーの気持ちが打ち解けるように、田中正弘21世紀教育副センター長による「アイスブレーキング」を行い、各グループの名前を決めることから始まりました。それぞれの共通項や特徴が現れる名称ということで「びっくり☆スノー」「熱血サポーターズ」「Φ(ファイ)」「Univer's」という個性的なグループ名が出そろいました。

○ミニレクチャー(1):小岩副センター長から「シラバスの書き方」についてのミニレクチャーがありました。Ⅰ授業は設計から、Ⅱ授業のシラバス、Ⅲ設計のポイント、Ⅳ設計を高めるには、という順で講義が進み、実際のシラバスを参考に、授業の設計からシラバスに落とし込むにはどうするかというわかりやすい説明でした。

○グループ作業(1):この後、各グループで授業の副題・目標の設定に関する作業が行われました。それぞれのグループの授業名は「方言に見る言語変化」「スポーツ科学」「弓道入門」「日本社会史」と決まり、作業が開始されました。

○ミニレクチャー(2):21世紀教育担当から「Moodle(ムードル)、クリッカーの利用」というテーマでミニレクチャーがありました。弘前大学で導入しているオンラインで行う学習管理システムであるMoodleと、講義中に学生がリモコンを使用して回答するクリッカーの概要や利点について説明しました。参加者には実際にクリッカーを使用して質問に回答してもらい、今後の活用の参考になりました。

○グループ作業(2):決めた授業名について、さらに授業内容および評価を設定する作業が進められました。授業を15回に分け、どの時間でどのような事を行うのか具体的に討論しました。

○ミニレクチャー(3):田中副センター長から「授業観察の勧め」というミニレクチャーがありました。自分なりの教育観を持ちつつ、それを他人と比較することによって進める

べきであることが指摘されました。一般的な 90 分の講義時間を、15 分の導入、60 分の展開、15 分のまとめに分けて授業を進めることが有効であることが示されました。

○グループ作業（3）：模擬授業案の作成を行いました。翌日の模擬授業に備え、各グループが議論を続けていました。一日目はここで終了です。

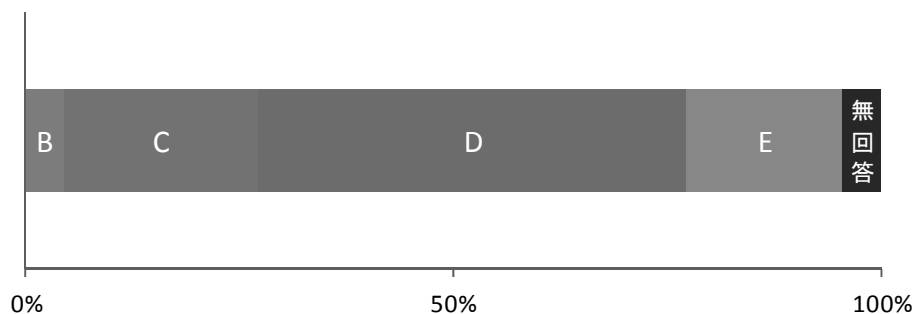
○グループ発表：翌日、いよいよ各グループによる模擬授業を開始しました。模擬授業 15 分、その後の質疑応答が 20 分の予定で進められました。中根理事、21 世紀教育センターの面々も受講学生として模擬授業に参加しました。各模擬授業が終わるごとに、他のグループから授業の良かった点と改善点、修正が必要だと思われる点について議論され、お互いに切磋琢磨することの重要性を実感しました。

今後のワークショップの改善に向けて、今回も参加者にアンケートをお願いしました。以下、その結果をまとめてみます。

設問 1 今回のワークショップを全体的に評価してください。

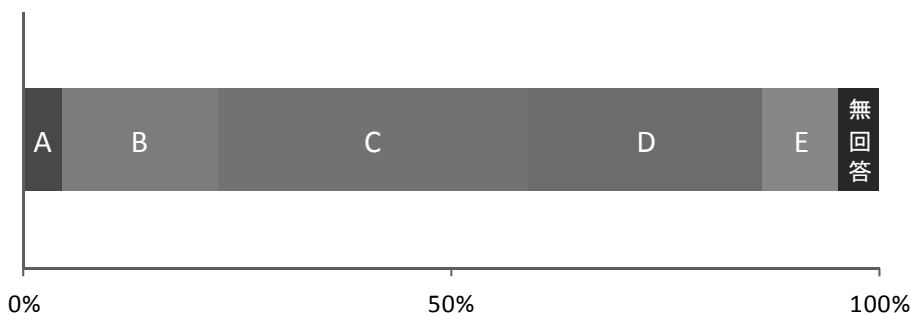
（1）内容の価値についてどう評価しますか。（回答数 22）

- A 価値なし（0 %）
- B 価値少ない（5 %）
- C いくらか価値あり（23 %）
- D かなり価値あり（50 %）
- E きわめて価値あり（18 %）
- 無回答（5 %）



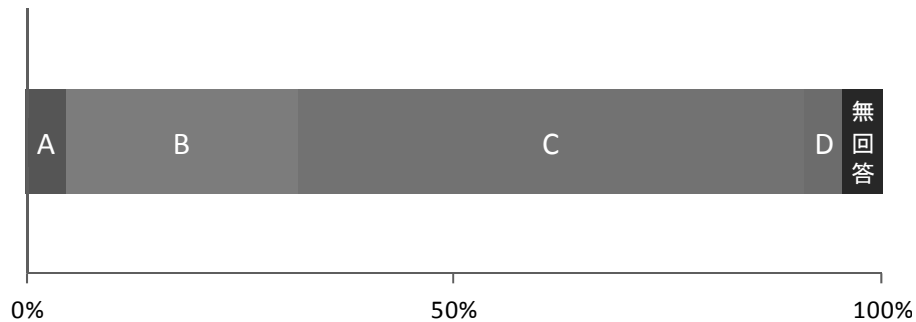
（2）内容に対する時間量はいかがでしたか。（回答数 22）

- A 多すぎ（5 %）
- B やや多い（18 %）
- C ほぼ適当（36 %）
- D やや少ない（27 %）
- E 少なすぎ（9 %）
- 無回答（5 %）



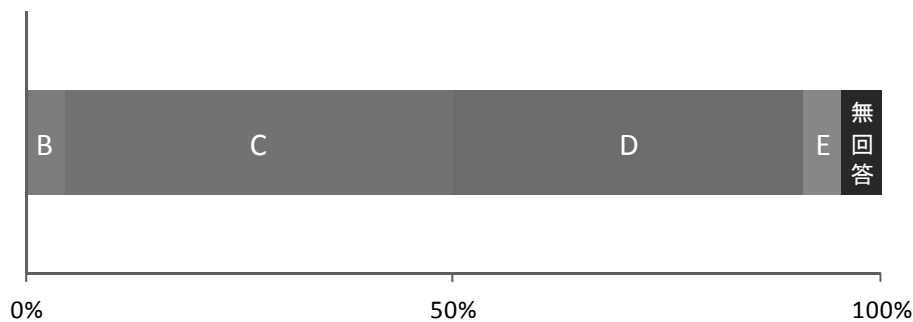
(3) 内容の難易をどう感じましたか。(回答数 22)

- A きわめて難しい (5%)
- B やや難しい (27%)
- C ほぼ適当 (59%)
- D 少し易しい (5%)
- E 易しすぎ (0%)
- 無回答 (5%)



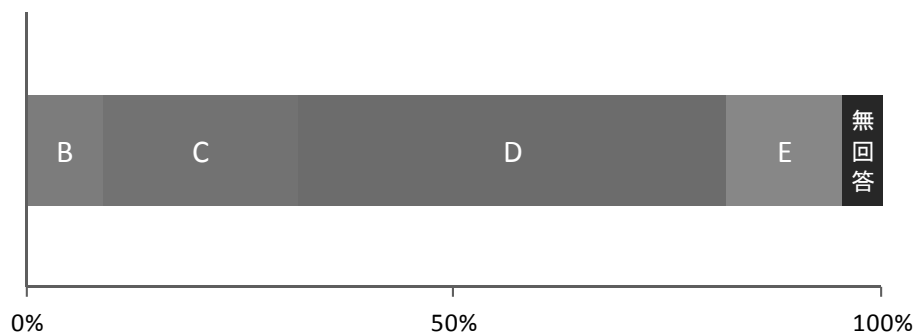
(4) このようなワークショップ形式の効果についてどう思いましたか。(回答数 22)

- A 効果なし (0%)
- B 効果少ない (5%)
- C ある程度効果的 (45%)
- D かなり効果的 (41%)
- E きわめて効果的 (5%)
- 無回答 (5%)



(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。(回答数 22)

- A 全く不適切 (0%)
- B やや不適切 (5%)
- C ある程度適切 (45%)
- D かなり適切 (41%)
- E きわめて適切 (5%)
- 無回答 (5%)



大半の参加者が内容には価値があると評価しています。時間量については、今回は宿泊形式ではなかったため、「少ない」という意見が多く見られました。難易度としては「やや難しい」と感じられた参加者も多かったようです。効果と興味に対する設問はおおむね良好でした。

設問2 今回のワークショップ全体にわたりとても良かったと思われる点（自由記述）

グループ形式ということで、多様な意見を聞くことができた、他学部の教員との交流を図る事ができたなど、総合大学ならではの、様々な分野の教員と議論できる事が評価されています。

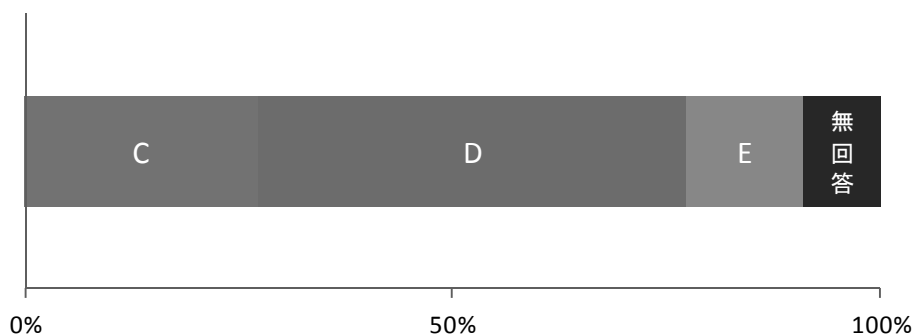
設問3 今回のワークショップ全体にわたり改善すべきと思われる点（自由記述）

模擬授業の準備時間が足りない、少ないというのがもっとも多い意見でした。模擬授業のためにグループで議論をする時間が少なく発表者任せになってしまった、講義テーマの選択肢があってもよい、などの意見もありました。

設問4 このワークショップで示されたような方法を今後取り入れようと思いますか

（回答数 22）

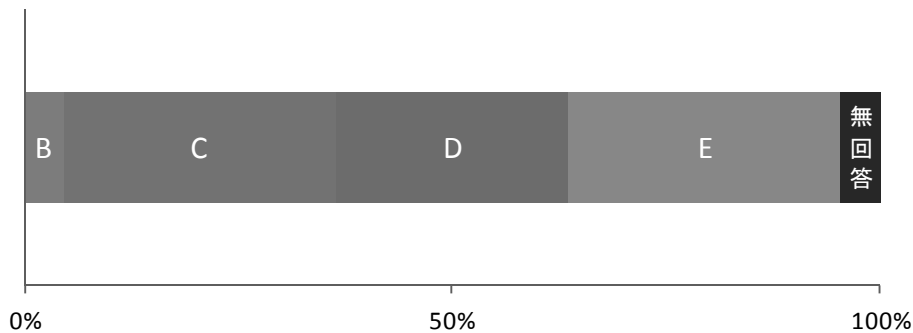
- A 全く取り入れる気はない（0%）
- B あまり取り入れようと思わない（0%）
- C 少し取り入れてみたい（27%）
- D かなり取り入れてみたい（50%）
- E 大いに取り入れたい（14%）
- 無回答（9%）



アンケート結果を見ると、今回のワークショップで学んだ方法を今後の授業に取り入れてみたいと考える参加者が多く、今後このようなワークショップの開催も積極的な意見を持っていることがわかります。

設問5 今後ともこういうワークショップを持つことに対して(回答数 22)

- A 全く取り入れる気はない(0%)
- B あまり取り入れようと思わない(5%)
- C 少し取り入れてみたい(32%)
- D かなり取り入れてみたい(27%)
- E 大いに取り入れたい(32%)
- 無回答(5%)



設問6 このワークショップの成果に関連して、今後1年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにしてください。

シラバスの書き方や授業計画の見直し、授業における工夫などについての意見が目立ちました。

全体を通して、時間が足りなかったという反省点があるものの、内容は充実し、今後の活用につながるような、満足のいくものであったとの評価だと思われます。



3 弘前大学高大連携シンポジウム

テーマ「国際化とは何か？－高校が望む国際化、大学を目指す国際化－」

高大連携シンポジウムは、高校と大学の教育内容をお互いに知り、意見交換をする目的で、平成14年度から毎年テーマを決め、高校教員と大学教員によるパネルディスカッション形式で実施している。平成24年度は2月5日（火）に本学総合教育棟2階大会議室で開催された。

今年度で第11回目となるこのシンポジウムは、「国際化とは何か？－高校が望む国際化、大学を目指す国際化－」をテーマとし活発な意見交換が行われた。高校・大学を問わず、国際化が必要とされて久しいが、現在の日本のおかれた状況を鑑みても、国際的な社会人として学生を世に送り出すことは大学として避けて通れない現状である。一方で、この「国際化」は何をもってさすのか、何ができればそれが達成されたと言えるのか、つかみどころのない概念でもある。本年度のシンポジウムでは、「高校が望む国際化、大学を目指す国際化」という視点から、国際化とは何かを探りながら、様々な事例をもとに幅広く話し合うことを目的としている。パネリストとして、高校側からは、青森県立南高等学校の鴨井智士教諭、本学からは国際交流センターの鹿嶋 彰教員、農学生命科学部の福澤雅志教員、保健学研究科の中村敏也教員、留学経験者学生として人文学部4年の福土裕也さん、農学生命科学部4年の佐藤純世さんが参加し、木村宣美21世紀教育センター長の開会の挨拶の後、宮永崇史FD広報専門委員会委員の司会のもと、話題提供と熱のこもった意見交換がなされた。以下、当日の講演内容およびパネルディスカッションの内容を紹介する。

【話題提供者の発表内容】

青森南高校 鴨 居 智 士 氏

青森南高校は全学年で17クラスの普通科のほか3クラス（各学年1クラス）の外国語科がある。外国語科の特徴として独自の研修、講演会・交流、プレゼンテーションに重点をおいたカリキュラムがあること、またロシア語を学ぶことができることがあげられる。青森南高校で行われている研修・講演会について紹介する。

青森南高校の外国語科では1年次および2年次において研修が行われている。1年次の「ハローワールド研修」は、福島県のブリティッシュヒルズにおいて行われる短期の英語漬けの研修である（今年は震災の影響のため秋田県の国際教養大学で実施）。2年次では「語学研修旅行」を実施する。これはメイン州において現地の小学校・中学校で日本の文化の紹介等のプレゼンテーションの実施、さらにホームステイによる現地の方々と交流をしている。

本校の国際的な交流は、提携校・姉妹校との本校独自の交流（定期的）、青森県、または

青森市からの依頼（不定期）、また、教員自体の個人的ネットワークを利用したものが行われている。今年度は提携校のアメリカのアサートン高校の生徒・教員を複数受け入れ短期での交流を行った。また、外部からの依頼として30名程度のアメリカの生徒を受け入れて交流することができた。教諭の個人のネットワークを利用したものとして、UNCHR 駐日代表の滝澤三郎氏、「世界青年の船」の事業参加者等による講演・交流を実施している。さらに、「異文化理解合宿」1泊2日の合宿を行っている。これは、外国人および留学・海外での仕事経験者との交流を行い異文化の理解を深めるものである。今年度はトルコ・イエメン・アラブ首長国連邦の人たちとの交流する機会を得た。

青森南高校の外国語科の教育方針としてコミュニケーション能力をのばすことに力入れている。また、英語力もさることながら異文化を理解する能力、違う世界の方々の考え方を知ること大切であると考えている。「コミュニケーション能力+英語力+異文化理解力＝国際人」という関係が成り立つかどうかはわからないが、その少なくとも土台作りにはなっていると思われる。

今後の課題としては、普通科・外国語科の温度差があり、これをどのように埋めるのかがあげられる。ましてや、外国語科がない他の高校ではさらに意識の差が大きくなっていると予想される。また、担当できる先生がいなければ継続することは難しい。青森南高校における交流プログラムの多くも、個人のネットワークをもとに人材を確保しているため、人事異動などが行われた場合は、継続が困難であるということも指摘できる。

国際交流センター 鹿嶋彰氏

国際交流センターには「留学促進（受け入れ・派遣）」「日本語科目、主に英語による国際交流科目の開設」「実践的な英語教育の推進」の3つの大きな役割がある。

弘前大学の留学希望者は、「英語が流暢に話すことができるようになりたい」という目的の学生多いが、その先に何をしたいのかを考えていない学生がほとんどである。留学とは、自分の意識が通じない世界に身をおき、日々の生活を営むために自分を表現することであり、これを通じて「日本人」「青森県人」になるということではないだろうか。このようなプロセスをシステムとしてサポートするのが国際交流センターの役割であると考えている。

弘前大学は現在「教育、若手研究者育成のために重要な国際化の推進」「地域に貢献すること」を重視している。これを満たすために国際交流センターでは「グローバルトラック課程（仮）」を提案している。これは、①全学学生を対象に教養科目（国際教養科目）を提供し、地域と世界を繋ぐ架け橋となる人材、リーダーを育成すること②学生の内向き志向を打開するため、国際社会に通用する技能、語学力、人間力を高める教育を提供すること③授業や学生生活を通し、外国人留学生との交流を促進し、双方の実践的なグローバル化教育をすること④留学の支援体制を強化することを目的としたものである。

現在は、国際人として地域、日本、自分のためにはどういうことをしていくのか、海外への道が開かれた中で、自分がどのようにふるまうことができるのかを考える時代である。

このために国際交流センターは、学生の負担を少なくする方策も進めており、海外の協定校を増やす計画もある。また、グローバルトラック課程では、英語などの教養科目もレベル別階層を取り入れ海外研修を組み込むことも計画している。

農学生命科学部 福澤 雅志 教員

生物学科の教員として国際化について話題を提供する。国際化については、国際的な社会人を誰がどのくらいの割合で必要としているのか、誰がどのくらいの割合で目指しているかという、需要と供給のバランスを考えることが必要である。

現在、国際的な社会人を社会に送り出すことは大学として避けられない課題である。高校側においても、国際的な社会人の育成は「大学で」という感覚をもっているのではないだろうか。また、日本の普通科の高校生は国際的な社会人になることを想定して大学進学をしているとは思えないし、大学生も国際化を考えているとはいえないであろう。それは、学生が国際化の必要性を感じるができない現状があるためであろう。とはいえ、一部では、大学は国際化に対応した学生を送り出しているが、社会的に受け皿が少なく、社会に受け入れられていないことが問題である。

生命科学分野からの大学の国際化をみた場合、研究系では国際化は進んでいる。先端研究を推進し、それに基づいた研究が行われ、教員の考え方が直接的に国際化に影響を与えている。しかし、若手は国際化意識が高いが、中には意識の低い教員もいる。博士課程の院生の数は少ないものの国際的な人は多い。しかし、ここでも社会的な受け皿が少ないという現状がある。

日本の地方大学には英語圏からの留学生は日本の大学には少なく、英語が不得手なアジア圏からの留学生が多い。このような現状において国際化を考えた場合、英語だけではなく、中国語、韓国語を学ぶ必要があると感じられる。学生の質としては、内向き志向、国際化のメリットの宣伝不足、現地のものを見ることをせずに理解したつもりになってしまうなどのグローバル化の弊害（ネット社会）などが問題点であろう。専門の講義を英語で行うことは、内容が中途半端になりやすい問題点も多い。

国際化の到達点は「ガイジン」に対する壁を低くすることである。しかし、国際化には到達点があるわけではなく、到達点は時代とともに変化し、個人でも変化するものであるから、到達点の設定は現在進行形で行われているべきものであると考える。

医学部 中村 敏也 氏

20数年前にボストンで2年間生活した。渡米前にはNHKのテレビの英会話教室で英会話の勉強をしていたが、多国籍の環境のために現地で聞くのはきれいな発音の英語ではなく訛りのある多様な英語であった。中学・高校ではネイティブのような発音を学んでいるが、それはすべてではないと思われる。

これまで、医学部保健学科の教員として、国家試験を受験する人、医療人の卵を教育し

てきたが、受験勉強の続きのようで本当の研究の楽しさを知らずに就職している人が多いように思われる。保健学研究科では、被曝研究の分野に注目が集まっている。専門とする生化学専門であり、核燃料等々についての知識は乏しいものの、5年前から被爆医療に関わる人材育成の教育カリキュラムに携わってきた。その中で3・11を迎える。核の事故を理解するには、グローバルな観点が必要であるが、虫の目のように詳細をみる能力、さらに鳥の目のように俯瞰してみる能力が必要である。

ヨーロッパの各国においては、参加国において共通の単位習得システムを認める「ボローニャプロセス」が実施され、国際競争力を高めることが行われている。その中では英語をスタンダードにしながらシステムに参加し4か国を話すことができることは当然のこととなっている。一方、アジアでは、医療の世界でも外国人との競争の時代が間もなく始まる。具体的にはベトナムやフィリピンの人たちと競争が予想される。日本の学生も競争意識をもつことがグローバル化の第一歩となるであろう。

人文学部4年 福 士 裕 也 さん

メイン州立大学、ドイツトリア大学に留学した経験を紹介する。中学生時代に短期ホームステイを経験した際に、自分の言いたいことが伝えられないもどかしさを感じ、大学時代においても留学を決心した。メイン州立大学への留学時の海外での生活では、英語が聞き取れない、日本語を聞くことがない生活となった。その環境が英語の上達を早めた。日本へのホームシックにかかることもあったが、海外において日本人として価値観を再認識することができ、多くことに挑戦する姿勢がみについた。

その後、ドイツ人留学生の影響をうけてドイツへの留学を決心した。留学前はドイツ語の知識は皆無であったが、一年で日常生活レベルは達成することができた。ドイツ社会の知識を習得することで、アメリカとは異なる視点があり、さらなる視野の拡大をすることができた。

留学学生の特権は、語学力、精神面での成長することができること、視野と価値観の拡大、未来的意識や動機付けが重要。将来、国際人として社会へ出たいという希望をもつことができることであると考えます。

農学生命科学部4年 佐 藤 純 世 さん

2012年からテネシー大学マーティン校へ留学をした。国際科がある高校が出身であり、JICAでの体験もしていた。中学・高校もホームステイを経験している。この時に、外国人と話すことの楽しさ、自分の意志が伝わることの楽しさを知った。

大学において日本の農業を学ぶなかで、さらに外国の農業を知りたいという希望があったことから、留学先ではおもに農学の授業をとっていた。留学先は、コーン畑の農村部が広がっていた。そこでは、すべて自分の常識が通じない世界で、相手との交渉でのりこえていく体験をすることができ、それは自分の大きな力になった。この体験を通し、外国人

が多くいる環境への抵抗がまったくなくなった。「壁が無くなること」が私の考える国際化のスタートである。

パネルディスカッション

・(高校側から) 外国語科出身の大学生が、大学において何をやっているのかというのがみえてこない。高校で学んだことがどのように活かすことができるのかがわからず、他大学との相違もわからない現状である。

・(大学側から) オープンキャンパスにおいて、国際交流センターで情報を提供している。これまでにホームステイを経験した生徒が訪ねてきて、実際に弘前大学を受験し入学した。しかし、高校と大学の情報のやりとりの不足は現実にある。情報を共有するシステムの開発が今後必要となってくるであろう。

・(高校側から) 外国語学科から理系に行くことができないのだろうか。高校での体験をふまえて、理系への進学を希望する生徒もいる。大学で門戸を広げてもらえればありがたい。

・(学生の立場から) 留学するメリットについて。ドイツの研究をしていたため、留学では、日本では得ることのできなかった資料・知識を得ることができ、研究の世界を広げることが留学のメリットであると考え。日常生活、音楽・映画、情報を多く入手することができることもメリットと考える。就職先の旅行会社では留学で経験したキャリアを活かしていきたい。

・楽天、日産などの企業は英語が公用語となっている。社会は国際化に対応した人材を求めているが、高校・大学はそれに見合った人材を供給できているかどうか、質・量とも問題であると考え。そこには大きなギャップが存在していて、それをどう埋めていくのがこれからの問題であろう。現在、大学の進学率高まっているが、留学者は減っている。留学した人は何かきっかけがあったから留学したと思われるが、そのようなきっかけづくり、どこに目を向けさせるのが課題である。

・インドネシアは総人口も多く、人口構成的にも若い人の数が多い。これらの人たちが日本の学生のライバルであること、ASEANの厚い労働力の存在があることなどを、使命感をもって、教員が辛抱強繰り返して伝えることが必要であろう。

・文系だけが言語をやっているだけではない。理系のところで、国際化に大きなギャップを感じる。中国・韓国では文系だけではなく理系も日本語を学んでいる。大連理工大学、韓国の工学系の留学生の日本語は上級レベルである。このような留学生が日本の生産現場に入っていて技術・知識を獲得していることを考えても、もうすでに国際競争力にはアンバランスが生じていると判断できる。韓国・中国への留学する日本の学生が増えることを期待する。

・「国際化・国際人とは何か？」と今日のシンポジウムからみえてきたことをまとめると、語学力に限らず世界的視点を持ち、他国の同年代をライバルと思えることが必要であり、閉塞感漂う日本を打破するためのきっかけであると考えられるのではないだろうか。

教育分担者としてのティーチング・アシスタント ー平成 23 年度弘前大学 TA 研修会の報告を兼ねてー

はじめに

我が国では、ティーチング・アシスタント（TA）は教員の「お手伝いさん」としての役割を担っていると一般的に考えられています。しかし、この考え方は、少し勿体ないように感じます。TA が「教育分担者」として主体的に活躍できる機会が与えられれば、大学教育の改善を大いに促進させるかもしれないためです。このことについて、北野秋男（2006：83）は、下記のように指摘しています。

大学には教職員、院生、学生など豊富な人的資源がある。この「人的資源」の活用や人的交流の活発化こそが、大学教育の改善につながる重要なキーワードではなかろうか。また、我が国の大学教育のあり方は、依然として「一人の教員」が「多くの学生」を指導するという伝統的な教授スタイルを保持したままである。この点、複数教員制やアシスタント制の採用は、我が国の大学教育における伝統的な教授スタイルを根底から変革する可能性を秘めている。

とはいえ、TA が教育分担者として教育活動に関わるのであれば、それに見合った知識や技能が無ければ、困ったことになりかねません。このため、TA 研修会の必要性が問われるようになってきました。例えば、全ての大学が 7 年以内に一度受審しなければならない認証評価の評価基準の中に、TA 研修会を適切に実施しているかを問うものが含まれることになりました。

そこで本学においても、2012 年 3 月 19 日（月）の 13:25～17:00 に、付属図書館ラーニング・スクエアで「平成 23 年度弘前大学 TA 研修会」を開催しました。当日は 6 名の発表者と、翌年度以降に TA を担当することが決まっている院生・学生 20 名、および教職員 14 名が参加し、活発な議論が行われました。

平成 23 年度弘前大学 TA 研修会

TA 研修会の目的は、TA を努めた大学院生の経験を発表し合い、課題を共有することで、彼らの教育支援能力の向上を期待するとともに、望ましい TA 制度の在り方について教職員も交えた議論の喚起を図ることです。

研修会は 3 部構成になっていて、第 1 部は「院生講師」（院生講師制度の詳細は、拙稿「院生講師（Graduate Student Instructor: GSI）制度の可能性ー2011 年度第 1 回 21 世紀教育センター FD 講演会の報告を兼ねてー」『21 世紀教育センターニュー



ス』第 19 号、1-2 頁を参照してください) としての経験談を、4 名の院生に発表してもらいました。

院生講師として英語 IA を担当した教育学研究科の小又一城君は、文法的な説明や机間指導、テスト作成などを分担しました。彼は、講義を組み立てる上で、下記の三点を基本に据えたとのことでした。

- 英語を楽しめるような講義の構成
- 知識の再構成
- 英語 II へ進むための下地作り

特に、講義を楽しんでもらうことで、英語の学習への苦手意識を取り払うことに重点を置いたこと、および自分の経験を織り交ぜて、次の段階に進むのに必要な知識の基盤作りを実践できたことが、自らも楽しめる講義になった要因だと自己分析していました。



次に、院生講師として数学の基礎 IIB の机間指導や問題解説などを分担した菅野巧君は、苦労した点

に、解答を丸写しする学生が多かったことから、理解度を確かめるための説明を求めることが難しかったことを挙げています。その一方で、楽しかったこととして、普段はふれあわない他学科の学生と交流できたことや、教えることで、数学のおもしろさを改めて知ることができたことを説明してくれました。

三番目の発表者として、物理学の基礎 IIB の指導を院生講師として分担した成田翔君は、大人数の講義に戸惑ったとのことでした。体験済みの塾講師と異なり、板書の高さや声の高さに気をつけないと、後ろの席の学生に迷惑を掛けてしまうことを、自らの失敗談として話してくれました。また、自分の利益になったこととして、物事を分かりやすく伝える技術はとても大切なことに気がついたことを指摘してくれました。この指摘は、大学院生に TA を体験してもらう重要な教育成果だと思われます。

第 1 部最後の発表者として、化学の基礎 IIB の解答解説や小テストの実施などを院生講師として分担した浅井伸太郎君は、講義中に学生の方を向いて話すのに苦労したとのことでした。それから、短い時間に簡潔に指導するためには、どうすればよいかを考えるようになったことが、自らの成長だと振り返っていました。また、修士課程のカリキュラムに院生講師制度を組み込むことも提案してくれました。

第 2 部は、TA としての経験談を 2 名の院生に発表してもらう時間にしました。最初に、保健学研究科の山内可南子さんが、TA の経験を述べてくれました。彼女の主な担当業務は、実験の準備・片付けですが、講義の補助なども担当しており、保健学の専門用語が飛び交う中で、戸惑っている学生に、その語意を説明してあげることの重要性など、TA に従事する予定の学生にとって示唆に富む話しが盛り込まれていました。

二人目の発表者である西村唯一郎君は、情報Ⅰ・ⅡのTAを担当した経験談を話してくれました。情報の科目の教育支援で難しいことは、学生の能力に大きなバラツキがあることで、コンピューターを既に高度に使いこなせる学生がいる一方で、全くの初心者もいるために、個別指導が欠かせないそうです。とはいえ、この個別指導はやっかいで、学生がどの操作で躓いているかを瞬時に把握するのはとても難しいことから、はじめの操作から一緒にたどってみる必要があるとの重要な指摘がありました。情報のTAを担当する予定の学生にとって、とても役に立つ指摘でした。

第3部は、参加学生（およびメンター役の教員）が三つの班に分かれて、ラウンドテーブル形式で「TAの経験から学んだこと」という題目を話し合いました。そして、30分間の話し合いの結果を、各班5分ずつ、発表しました。ここで述べられた意見の中には、下記のようなものがありました。



- TAにとって大変なことは、疑問があっても、手を挙げて質問をせずに、立ち止まってしまう学生への対応です。学生に積極的に話しかけて、質問をしやすくする環境を整えたり、理解度が低い学生にゆっくりと時間を掛けて説明してあげたりする必要があると思います。
- 机間指導では、一方的に教えてあげるよりも、学生と一緒に考えてあげることが、彼らの理解度を深めるのに、とても有効だと思います。
- 実験で期待していた結果を得られない時には、TAが正しい手順を直接見せてあげるよりも、学生と一緒に「悩んであげる」ことが大事だと思います。言い換えると、TAは学生に失敗の原因を考えてもらうようにすることが、重要な役目だと思います。

まとめ

TA研修会で、院生・学生による主体的で積極的な議論が展開されたことは、とても嬉しい誤算でした。このよい試みを来年度も継続していきたいです。

【参考文献】

北野秋男（2006）「日本のティーチング・アシスタント制度 大学教育の改善と人的資源の活用」東信堂。

5 21世紀教育に関する学生アンケート調査

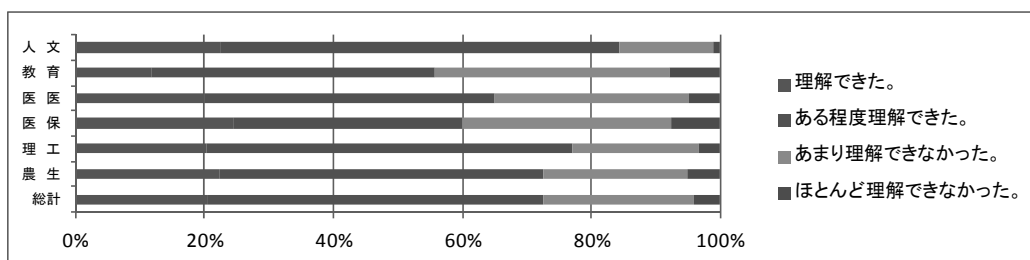
1) 平成24度前期学生アンケート調査結果の概要

○1年生：設問2～設問9

設問2：入学時のガイダンスの説明で、21世紀教育の履修のしかたが理解できたか？

(回答数518)

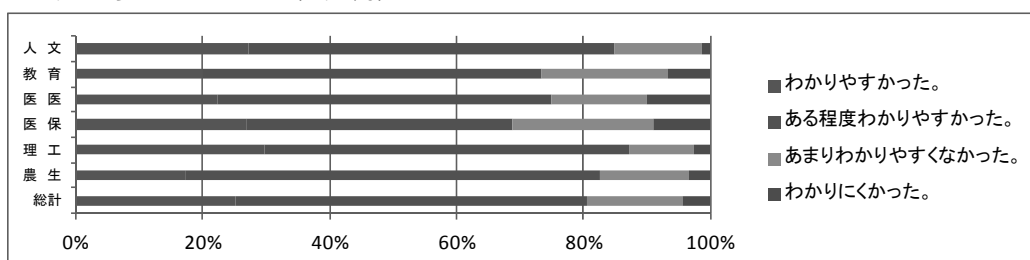
- ・理解できた (20.5%)
- ・ある程度理解できた (52.1%)
- ・あまり理解できなかった (23.2%)
- ・ほとんど理解できなかった (23.2%)



「理解できた」「ある程度理解できた」を合わせた割合は回答者の7割を超えており、昨年度 (76%) とほぼ同等となりました。昨年度と同様に理解度の学部間の差が大きく、人文学部・理工学部で理解度が高く、教育学部が低くなっています。

設問3：「履修マニュアル」の解説はわかりやすかったか？ (回答数516)

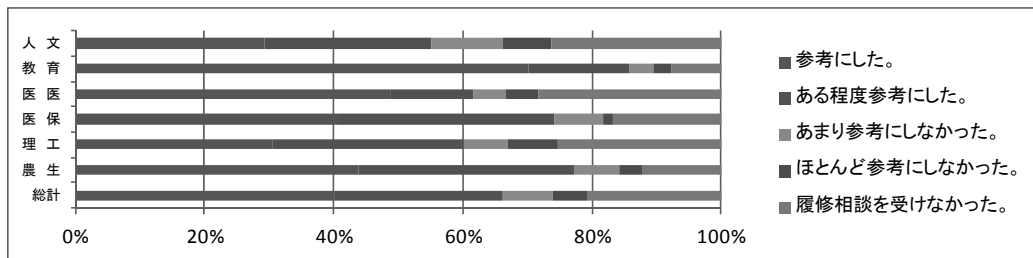
- ・わかりやすかった (25.2%)
- ・ある程度わかりやすかった (55.4%)
- ・あまりわかりやすくなかった (15.1%)
- ・わかりにくかった (4.3%)



「わかりやすかった」「ある程度わかりやすかった」を合わせた割合は全体の80.6%と、昨年度(80.8%)と同等の結果となりました。一方で教育学部、医学部保健学科では「あまりわかりやすくなかった」とする回答が20%を超えるなど、「履修マニュアル」の説明に工夫が必要と思われます。

設問4：履修相談で受けた指導を履修にあたって参考にしたか？（回答数517）

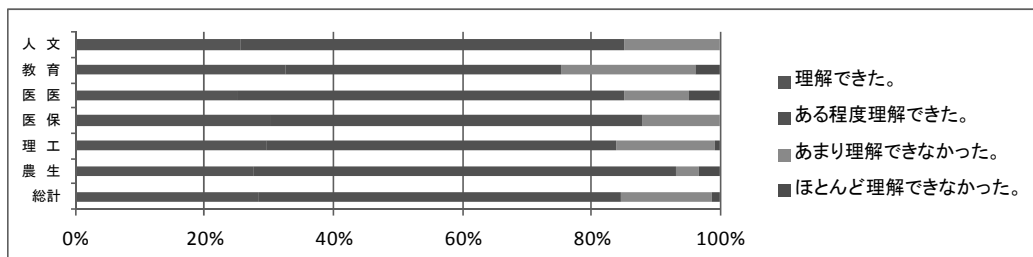
- ・参考にした（40.2%）
- ・ある程度参考にした（26.0%）
- ・あまり参考にしなかった（7.7%）
- ・ほとんど参考にしなかった（5.4%）
- ・履修相談を受けなかった（20.7%）



回答者の約79%が履修相談を利用し、そのうち8割以上の学生が相談時に受けた指導を参考におり、履修相談が重要な役割を果たしている事がわかります。また学部によって履修相談の利用率に差があり、教育学部で92.2%と高く、医学部医学科で71.8%と最も低くなっています。今後とも履修相談を充実させることが必要と思われます。

設問5：入学時のガイダンスや履修相談等を通じて、21世紀教育の目標が理解できたか？（回答数519）

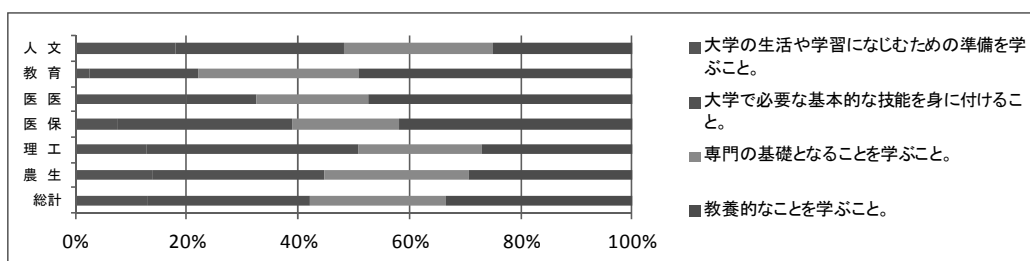
- ・理解できた（28.3%）
- ・ある程度理解できた（56.3%）
- ・あまり理解できなかった（13.9%）
- ・ほとんど理解できなかった（1.5%）



「ある程度」程度以上理解できたとする回答は、全体で約 84%と、昨年同様の高い理解度であることがわかります。また「ほとんど理解できなかった」とする回答が昨年度 (2.1%) より低くなっており、入学当初に 21 世紀教育の目標の理解の程度はより高まっているものと判断されます。

設問6：21 世紀教育に対して一番強く期待することは何か？（回答数 520）

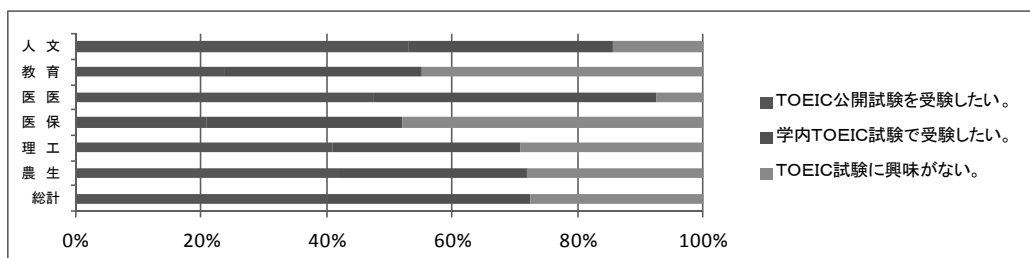
- 大学の生活や学習になじむための準備を学ぶこと (12.9%)
- 大学に必要な基本的な技能を身に付けること (29.2%)
- 専門の基礎となることを学ぶこと (24.4%)
- 教養的なことを学ぶこと (33.5%)



選択肢はそれぞれ「導入科目」「技能系科目」「基礎教育科目」「テーマ科目」の目標に対応しております。期待する内容は学部間で異なっており、理工学部・農学生命科学部は、「大学に必要な基本的な技能を身に付けること」の割合が高く、教育学部・医学部医学科・医学部保健学科では、「教養的なことを学ぶこと」の割合が高くなっています。

設問7：TOEIC 試験に興味がありますか？（回答数 517）

- TOEIC 公開試験を受験したい (40.2%)
- 学内 TOEIC 試験を受験したい (32.3%)
- TOEIC 試験に興味がない (27.5%)

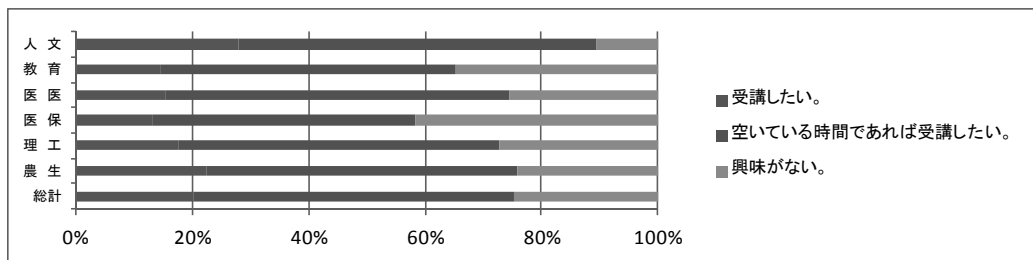


全体で約 72% (375 名) もの学生が TOEIC 試験の受験を希望しています。前年度約 70% (462 名) と比較すると TOEIC の受験熱がさらに高まっていることがわかります。人文学部と医学部医学科では何らかの形での受験を希望する学生が 80%を超えており、TOEIC 試験に対して特に積極的な姿勢が窺えます。理工学部や農学生命科学部でも軒並み 60%を超えてお

り、TOEIC 試験に積極的な姿勢が見られます。これに対し、教育学部や医学部保健学科では消極的な傾向が見られます。

設問8：TOEIC 向けの授業を受講したいですか？（回答数 517）

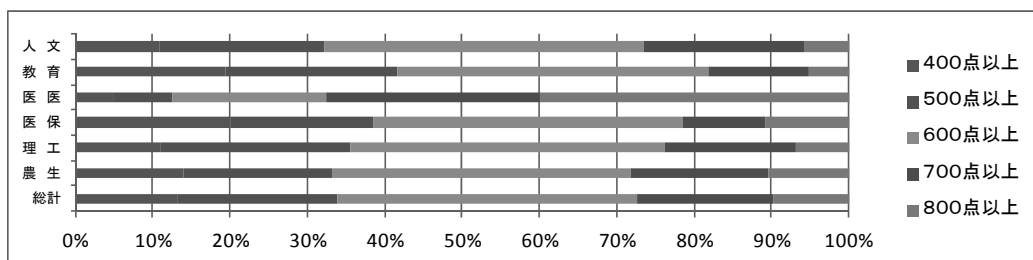
- ・受講したい（20.3%）
- ・空いている時間であれば受講したい（55.1%）
- ・興味がない（24.6%）



TOEIC 向けの授業に対しても基本的に問 7 の TOEIC の試験の場合と同じ傾向で、約 75% の学生が受講を望んでいます。ただし、TOEIC 向けの授業を受講した学生の大半が「空いている時間があれば」と回答しているため、時間割上の工夫があれば受講希望者を増加することができます。教育学部と医学部保健学科では若干消極的な傾向が見られます。

設問9：TOEIC を受験する場合は、何点ぐらいに目標を設定したいですか？(回答数 515)

- ・400 点以上（13.2%）
- ・500 点以上（20.6%）
- ・600 点以上（38.8%）
- ・700 点以上（17.7%）
- ・800 点以上（9.7%）



医学部医学科の 700 点以上以外は、600 点以上を第一目標としており、ついで 500 点以上と、全体的に高い点数を志向しているようです。前年度と同様に、400 点以上を目標とする割合が減少傾向にあります。

設問 10：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。

人文学部と理工学部が多く、医学部医学科で少ないようです。受講できなかった科目の上位は、「心理学の基礎（20名）」、「哲学の基礎（17名）」、「言語学の基礎（13名）」です。

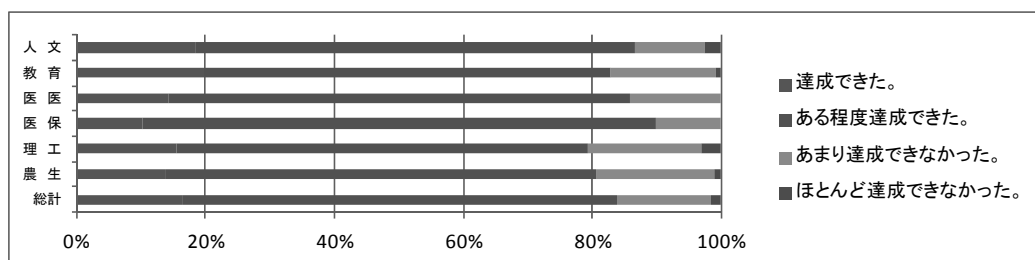
	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人 数	52	20	1	7	33	18	131
科目数	27	11	1	8	19	11	77

○2年生：設問2～設問7

21世紀教育の「基礎教育科目」「テーマ科目」「技能系科目」について、その程度を問いました。学部学科により回答数にばらつきが見られるため一概には比較できませんが、以下のような結果になりました。

設問2：21世紀教育の「基礎教育科目」の達成目標は「学問のすそ野を広げ、学ぶための教養を培う」ことだった。あなたの学習の結果からみて達成感はどうだったか？（回答数517）

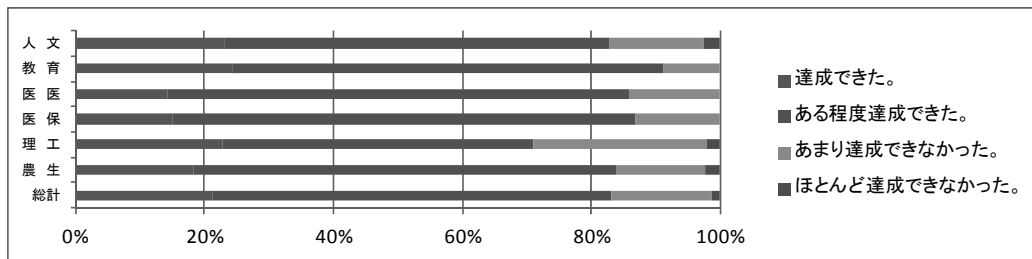
- ・達成できた（16.5%）
- ・ある程度達成できた（67.3%）
- ・あまり達成できなかった（14.5%）
- ・ほとんど達成できなかった（1.7%）



「達成・ある程度達成」できたと回答した学生は全体の約84%であり、概ね目標を達成していると思われます。医学部医学科については「達成できなかった」と感じる割合が14.3%と、昨年度の33%よりも大幅に減少しており、昨年度に比べ、学部学科間の相違が縮小しています。

設問3：21世紀教育の「テーマ科目」の達成目標は「幅広く深い教養と総合的な判断力を養う」ことだった。これに対して、あなたの学習の結果からみて達成感はどうだったか？（回答数518）

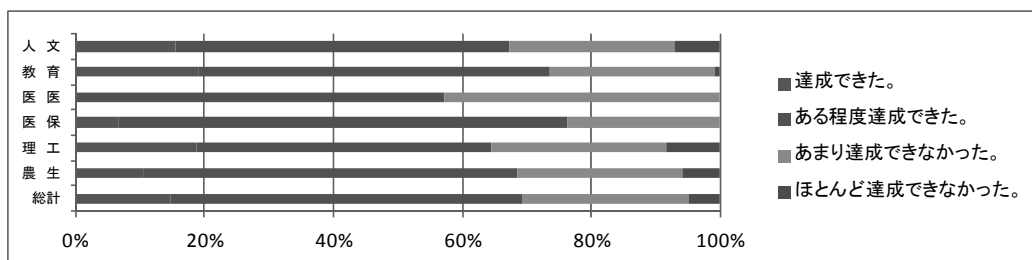
- ・達成できた（21.4%）
- ・ある程度達成できた（61.6%）
- ・あまり達成できなかった（15.5%）
- ・ほとんど達成できなかった（1.5%）



「達成、ある程度達成」できたと回答した学生は全体の 83%であり、多くは達成感の感じることができる興味関心のある科目を履修していると思われます。しかしながら理工学部で「あまり達成できなかった」と感じる学生が 26.8%と高く、履修した内容と興味関心が異なる場合も多かったようです。

設問4：21世紀教育の「技能系科目」の達成目標は「国際化や自己管理、自己表現に対する能力の育成」だった。あなたの学習の結果からみて達成感はどうだったか？

- ・達成できた（14.8%）
- ・ある程度達成できた（54.5%）
- ・あまり達成できなかった（25.9%）
- ・ほとんど達成できなかった（4.8%）



「達成、ある程度達成」と回答した学生は、全体で 69%でしたが、最も割合が高かったのは、医学部保健学科の 76.3%、最も低かったのは医学部医学科の 57.1%と学部学科間でばらつきが見られました。

設問5：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。

人文学部に多く、医学部医学科はいませんでした。

受講できなかった科目の上位は、いずれもテーマ科目の「メンタルヘルス（6名）」、「最新医学の現状（5名）」、「東日本大震災復興論（4名）」、「太宰治研究（4名）」です。

	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人 数	21	12	0	12	8	15	68
科目数	14	10	0	12	10	14	60

**設問6：21世紀教育科目の成績評価について感じたことがあれば自由に記してください。
（回答数40）**

意見の多くは「成績評価の基準がよくわからない」「担当教員によって評価基準が違う」といった評価基準に関する内容です。その他、成績評価において出席点を重視してほしいなどの意見もありました。

設問7：21世紀教育の全体を通じて、特に感じたこと、考えたこと、提案したいことがあれば、自由に記してください。（回答数50）

多岐にわたる意見が寄せられましたが、特に多かったのが「履修制限に関すること」、「成績評価に関すること」、「時間割に関すること」です。「履修制限に関すること」では、抽選になる科目が多いことに対する不満、「成績評価に関すること」では、成績評価の基準がよくわからない、担当教員によって評価基準が違うといった意見が多くありました。「時間割に関すること」では、テーマ科目が火曜日と木曜日に集中していることについて、他の曜日や他の時限にも多く開講して欲しいなどの意見が寄せられました。

また、21世紀教育科目の一学期に履修登録できる単位の上限について緩和を求める意見や、履修のルールをもっとシンプルで分かり易くしてほしいといった要望が寄せられました。

講義室の設備に対しては、特にマイク設備の充実を求める意見が多く寄せられました。

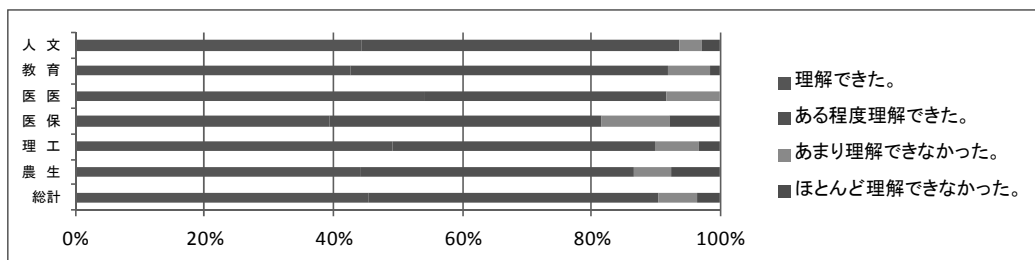
2) 平成 24 度後期学生アンケート調査結果の概要

21 世紀教育に関するアンケートは、特に履修ガイダンス及び基礎ゼミナールについて、平成 23 年度に引き続いて実施しました。このアンケート結果の蓄積したデータを分析し、履修ガイダンスの方法及び基礎ゼミナールの実施内容を検討する指針になればと考えております。

設問 2：後期のガイダンスの説明で、21 世紀教育の履修のしかたが理解できたか？

(回答数 433)

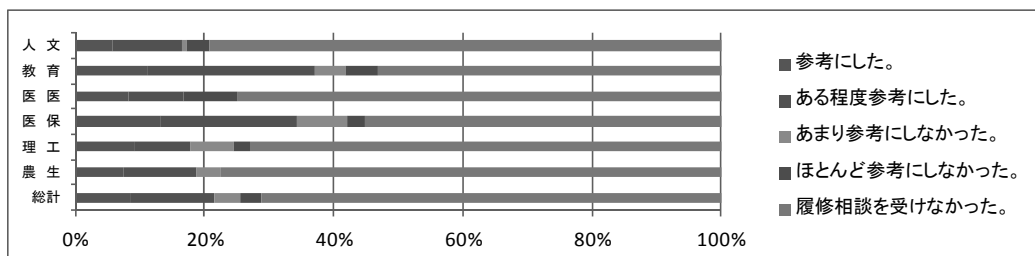
- ・理解できた(45.5%)
- ・ある程度理解できた(44.8%)
- ・あまり理解できなかった(6.0%)
- ・ほとんど理解できなかった(3.7%)



全体の 90%が「理解できた」「ある程度理解できた」と回答しており、「あまり」「ほとんど」理解できなかったと回答した学生が昨年度（11%）より減少する（9.7%）など、ガイダンスの説明による理解がより深まっていることがわかります。

設問 3：履修相談で受けた指導を履修にあたって参考にしたか？（回答数 435）

- ・参考にした(13.1%)
- ・あまり参考にしなかった(3.9%)
- ・ほとんど参考にしなかった(3.2%)
- ・履修相談を受けなかった(71.3%)



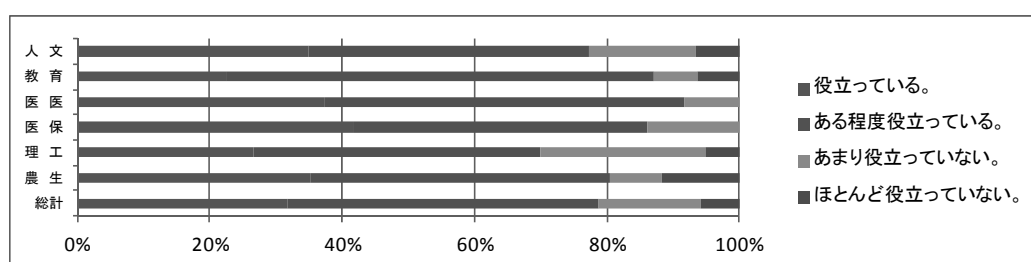
後期の履修相談を受けた学生は全体の 20.2%と前期（79%）に比べ半分以下でしたが、相談を受けた学生の 75%が「ある程度以上」参考にしたと回答しており、後期の相談者数

は少ないものの、履修科目決定に不安を持つ学生への相談窓口として有効であることがわかります。利用率では教育学部と医学部保健学科が高く、農学生命科学部が低いという結果が見られました。

設問4：「基礎ゼミナール」は、大学の学習や生活になじむために役立ったか？

(回答数 426)

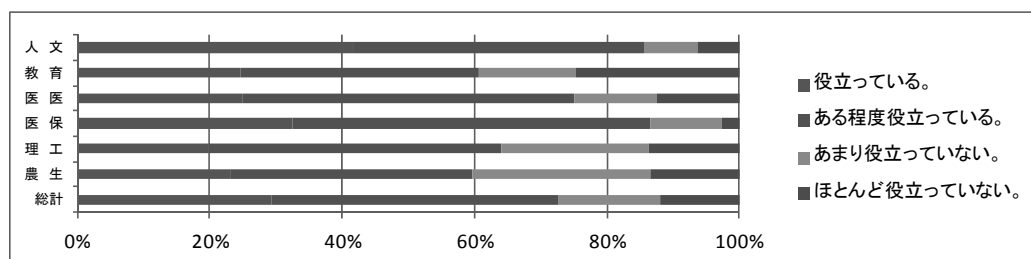
- ・役立っている(31.7%)
- ・ある程度役立っている(46.9%)
- ・あまり役立っていない(15.5%)
- ・ほとんど役立っていない(5.9%)



「ある程度」以上役立っていると回答した学生の割合は、医学部医学科で91.7%と最も高い一方、理工学部では最も低い69.8%とばらつきがみられましたが、全体の合計では78.6%の学生が「ある程度」以上役立っていると回答しており、21世紀教育の中で基礎ゼミナールの重要性が引き続くうかがえます。

設問5：「基礎ゼミナール」は、レポートなどの文書作成に役立っているか？(回答数 430)

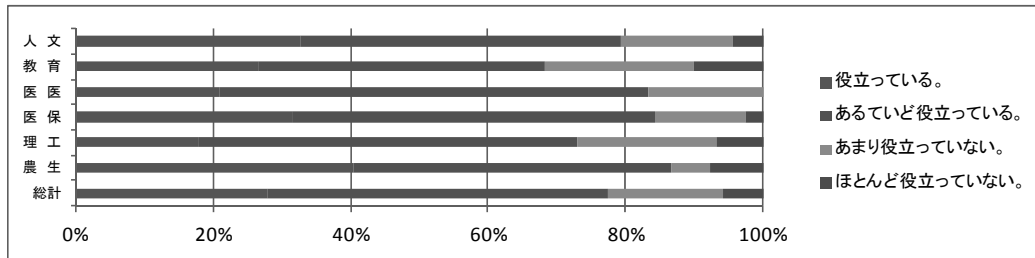
- ・役立っている(29.3%)
- ・ある程度役立っている(43.3%)
- ・あまり役立っていない(15.6%)
- ・ほとんど役立っていない(11.9%)



設問6：「基礎ゼミナール」は、口頭発表などに役立っているか？(回答数 427)

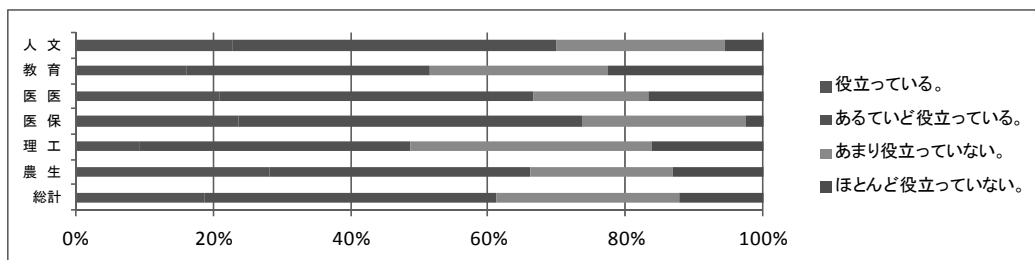
- ・役立っている(27.9%)
- ・ある程度役立っている(49.6%)

- あまり役立っていない(16.6%)
- ほとんど役立っていない(5.9%)



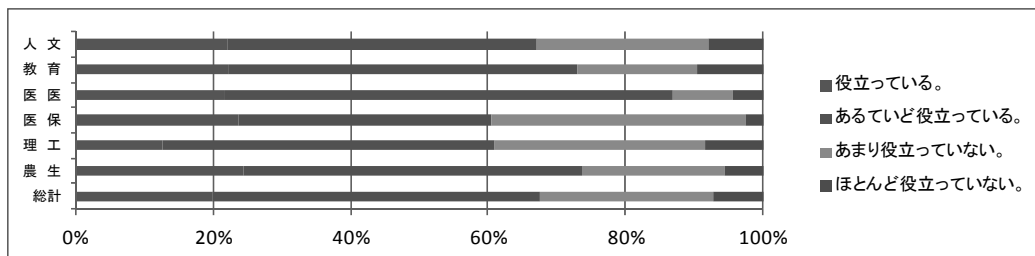
設問7：「基礎ゼミナール」は、資料を探す際に役立っているか？（回答数 434）

- 役立っている(18.9%)
- ある程度役立っている(42.4%)
- あまり役立っていない(26.5%)
- ほとんど役立っていない(12.2%)



設問8：「基礎ゼミナール」は、物事を批判的に検討し、新しい課題を探すことに役立っているか？（回答数 435）

- 役立っている(20.0%)
- ある程度役立っている(47.6%)
- あまり役立っていない(25.1%)
- ほとんど役立っていない(7.4%)



基礎ゼミナールは、大学における自立的・主体的学習への順応を図るため、資料の検索や収集方法を理解し、正しい文章表現と説得力のあるプレゼンテーションの方法を学び、議論を深める討論の仕方を習得することを目的とした導入科目として位置付けられています。

す。設問5・設問6は、文章作成、口頭発表に関する設問ですが、これに対して「ある程度」以上役立っていると回答した割合は昨年同様 76～77%と高く、基礎ゼミナールが、大学で学ぶための基礎的な手法を学ぶ導入科目としての役割を果たしていると判断できます。しかしながら設問7の資料検索において、約 38.7%の学生が「役に立っていない」と回答しており、特に理工学部においては、51.4%と高い数字が見られ、学部学科間の差も大きく、各学部のそれぞれの事情や必要性に応じた展開方法を引き続き検討する必要があると思われる。

設問9：履修を希望したが、時間割の関係で受講できなかった科目があれば記入してください。

人文学部と理工学部が多く、医学部医学科で少ないようです。受講できなかった科目の上位は、いずれもテーマ科目の「芸術の世界（9名）」、「最新医学の現状（8名）」、「社会と私（8名）」です。

	人文学部	教育学部	医学部 医学科	医学部 保健学科	理工学部	農学生命 科学部	計
人 数	39	12	2	7	23	12	95
科目数	39	13	2	7	24	12	97

設問10：21世紀教育科目の成績評価について感じたことがあれば自由に記してください。（回答数52）

「妥当だと思う」「適切だと思う」という記述が3件ありましたが、その他は批判や要望のようです。その多くは「成績評価の基準がよくわからない」「担当教員によって評価基準が違う」といった評価基準に関する内容です。また、「点数を開示してほしい」といった意見もありました。

設問11：21世紀教育の全体を通じて、特に感じたこと、考えたこと、提案したいことがあれば、自由に記してください。（回答数57）

多岐にわたる意見が寄せられましたが、特に多かったのが「履修制限に関すること」、「成績評価に関すること」、「時間割に関すること」です。「履修制限に関すること」では、抽選になる科目が多いことに対する不満、履修希望者が多い科目については複数コマ開講してほしいといった要望が多くありました。「成績評価に関すること」では、前述の問11と同様に、成績評価の基準がよくわからない、担当教員によって評価基準が違うといった意見が多くありました。「時間割に関すること」では、受講したい科目が同一曜日・時間帯に重なっている、特定の曜日に授業が集中しているといった不満が多く寄せられました。

6

21世紀教育授業実施結果

(1) 平成24年度 21世紀教育科目開講状況一覧

区 分 ・ 領 域		前 期	後 期	計	備 考
基 礎 ゼ ミ ナ ー ル		110	0	110	
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 実 習		96	102	198	
多 言 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 実 習	ド イ ツ 語	26	8	34	
	フ ラ ン ス 語	27	13	40	
	中 国 語	24	10	34	
	ロ シ ア 語	2	12	14	
	朝 鮮 語	4	2	6	
	特 設 言 語 (ス ペ イ ン 語)	2	2	4	
	特 設 言 語 (タ イ 語)		1	1	
	小 計	85	48	133	
ス ポ ー ツ ・ 体 育 実 技		19	6	25	
芸 術 実 技		3	4	7	
基 礎 教 育 科 目	文 化 系 基 礎	15	11	26	
	社 会 系 基 礎	18	14	32	
	自 然 計 基 礎	72	46	118	
	情 報 系 基 礎	22	6	28	
	保 健 体 育 系 基 礎	3	2	5	
	小 計	130	79	209	
テ ー マ 科 目	国 際	3	5	8	
	環 境	10	14	24	
	健 康	8	10	18	
	科 学	12	7	19	
	社 会	4	9	13	
	文 化	6	7	13	
	人 間	8	10	18	
	特 設	8	6	14	
	小 計	59	68	127	
21 世 紀 教 育 科 目 計		502	307	809	

6 21世紀教育授業実施結果

(2) 21世紀教育開設授業科目／履修人員一覧

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	月5・6	00033	基礎ゼミナール【人文学部】	細矢 浩志	16							16
前期	月5・6	00034	基礎ゼミナール【人文学部】	福田 進治	16							16
前期	月5・6	00035	基礎ゼミナール【人文学部】	山本 康裕	16							16
前期	月5・6	00036	基礎ゼミナール【人文学部】	保田 宗良	16							16
前期	月5・6	00037	基礎ゼミナール【人文学部】	加藤 恵吉	16							16
前期	月5・6	00038	基礎ゼミナール【人文学部】	内藤 周子	15							15
前期	月5・6	00039	基礎ゼミナール【人文学部】	嶋 恵一	15							15
前期	月5・6	00040	基礎ゼミナール【人文学部】	大橋 忠宏	15							15
前期	月7・8	00046	基礎ゼミナール【人文学部】	足達 薫	16							16
前期	月7・8	00047	基礎ゼミナール【人文学部】	上條 信彦	16							16
前期	月7・8	00048	基礎ゼミナール【人文学部】	清水 明	14							14
前期	月7・8	00049	基礎ゼミナール【人文学部】	泉谷 安規	15							15
前期	月7・8	00050	基礎ゼミナール【人文学部】	植木 久行	15							15
前期	月7・8	00051	基礎ゼミナール【人文学部】	松井 太	15							15
前期	月7・8	00052	基礎ゼミナール【人文学部】	山本 秀樹	15							15
前期	月7・8	00053	基礎ゼミナール【人文学部】	内海 淳	16							16
前期	月7・8	00054	基礎ゼミナール【人文学部】	上松 一	16							16
前期	月7・8	00055	基礎ゼミナール【人文学部】	澤田 真一	16							16
前期	月7・8	00056	基礎ゼミナール【人文学部】	曾我 亨	16							16
前期	月7・8	00057	基礎ゼミナール【人文学部】	羽渕 一代	15							15
前期	月7・8	00058	基礎ゼミナール【人文学部】	日比野 愛子	16							16
前期	月7・8	00059	基礎ゼミナール【人文学部】	長谷河 亜希子	16							16
前期	月7・8	00060	基礎ゼミナール【人文学部】	日野 辰哉	15							15
前期	月9・10	00063	基礎ゼミナール【教育学部】	平田 淳		17						17
前期	月9・10	00064	基礎ゼミナール【教育学部】	花屋 道子		12						12
前期	月9・10	00065	基礎ゼミナール【教育学部】	武内 裕明		10						10
前期	月9・10	00066	基礎ゼミナール【教育学部】	山田 史生		18						18
前期	月9・10	00067	基礎ゼミナール【教育学部】	高瀬 雅弘		14						14
前期	月9・10	00068	基礎ゼミナール【教育学部】	田中 義久		12						12
前期	月9・10	00069	基礎ゼミナール【教育学部】	山本 逸郎		15						15
前期	月9・10	00070	基礎ゼミナール【教育学部】	今田 匡彦		6						6
前期	月9・10	00071	基礎ゼミナール【教育学部】	佐藤 光輝		8						8
前期	月9・10	00072	基礎ゼミナール【教育学部】	高橋 俊哉		5						5
前期	月9・10	00073	基礎ゼミナール【教育学部】	荒井 一成		5						5
前期	月9・10	00074	基礎ゼミナール【教育学部】	安川 あけみ		7						7
前期	月9・10	00075	基礎ゼミナール【教育学部】	小嶋 英夫		10						10
前期	月9・10	00076	基礎ゼミナール【教育学部】	増田 貴人		17						17
前期	月9・10	00077	基礎ゼミナール【教育学部】	田中 完		13						13
前期	月9・10	00078	基礎ゼミナール【教育学部】	田中 勝則		13						13
前期	月9・10	00079	基礎ゼミナール【教育学部】	戸塚 学		16						16
前期	月9・10	00080	基礎ゼミナール【教育学部】	出 佳奈子		21						21
前期	月9・10	00081	基礎ゼミナール【教育学部】	長南 幸安		19						19
前期	月9・10	00082	基礎ゼミナール【教育学部】	澤 佳成		19						19
前期	月5・6	00041	基礎ゼミナール【医学部医学科】	上野 伸哉 他			103					103
前期	火3・4	00113	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	一戸 とも子				10				10
前期	火3・4	00114	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	工藤 せい子				10				10
前期	火3・4	00115	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	山辺 英彰				10				10
前期	火3・4	00116	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	富澤 登志子				10				10
前期	火3・4	00117	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	米坂 勸				10				10
前期	火3・4	00118	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	五十嵐 世津子				10				10
前期	火3・4	00119	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	米内山 千賀子				9				9
前期	火3・4	00120	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	則包 和也				11				11
前期	月7・8	00121	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	齋藤 久美子				7				7
前期	火3・4	00122	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	柏倉 幾郎				10				10
前期	火3・4	00123	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	中川 公一				10				10
前期	火3・4	00124	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	齋藤 陽子				10				10

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	火3・4	00125	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	千葉 正司				11				11
前期	月7・8	00126	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	伊藤 巧一				10				10
前期	月7・8	00127	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	藤岡 美幸				10				10
前期	月7・8	00128	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	中野 京子				10				10
前期	月7・8	00129	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	中野 学				11				11
前期	火3・4	00130	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	高見 彰淑				10				10
前期	火3・4	00131	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	若山 佐一				11				11
前期	火3・4	00132	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	加藤 拓彦				10				10
前期	火3・4	00133	基礎ゼミナール【医学部保健学科】	上谷 英史				10				10
前期	月3・4	00005	基礎ゼミナール【理工学部】	江居 宏美					12			12
前期	月3・4	00006	基礎ゼミナール【理工学部】	金 正道					9			9
前期	月3・4	00007	基礎ゼミナール【理工学部】	立谷 洋平					10			10
前期	月3・4	00008	基礎ゼミナール【理工学部】	中里 博					10			10
前期	月3・4	00009	基礎ゼミナール【理工学部】	浅田 秀樹					14			14
前期	月3・4	00010	基礎ゼミナール【理工学部】	小豆畑 敬					13			13
前期	月3・4	00011	基礎ゼミナール【理工学部】	任 皓駿					13			13
前期	月3・4	00012	基礎ゼミナール【理工学部】	澤田 英夫					16			16
前期	月3・4	00013	基礎ゼミナール【理工学部】	川上 淳					15			15
前期	月3・4	00014	基礎ゼミナール【理工学部】	北川 文彦					15			15
前期	月3・4	00015	基礎ゼミナール【理工学部】	氏家 良博					16			16
前期	月3・4	00016	基礎ゼミナール【理工学部】	児玉 安正					13			13
前期	月3・4	00017	基礎ゼミナール【理工学部】	津村 浩三					15			15
前期	月3・4	00018	基礎ゼミナール【理工学部】	上原子 晶久					14			14
前期	月3・4	00019	基礎ゼミナール【理工学部】	岡本 浩					15			15
前期	月3・4	00020	基礎ゼミナール【理工学部】	黒川 敦					14			14
前期	月3・4	00021	基礎ゼミナール【理工学部】	岡崎 功					15			15
前期	月3・4	00022	基礎ゼミナール【理工学部】	一條 健司					15			15
前期	月3・4	00023	基礎ゼミナール【理工学部】	稲村 隆夫					11			11
前期	月3・4	00024	基礎ゼミナール【理工学部】	飯倉 善和					13			13
前期	月3・4	00025	基礎ゼミナール【理工学部】	笹川 和彦					12			12
前期	月3・4	00026	基礎ゼミナール【理工学部】	齊藤 玄敏					12			12
前期	月3・4	00027	基礎ゼミナール【理工学部】	花田 修賢					11			11
前期	木3・4	00302	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	葛西 身延						9		9
前期	木3・4	00303	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	黒尾 正樹						8		8
前期	木3・4	00304	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	福澤 雅志						8		8
前期	木3・4	00305	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	石田 清						9		9
前期	木3・4	00306	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	西野 敦雄						8		8
前期	木3・4	00307	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	橋本 勝						10		10
前期	木3・4	00308	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	姫野 俵太						10		10
前期	木3・4	00309	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	殿内 暁夫						10		10
前期	木3・4	00310	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	坂元 君年						10		10
前期	木3・4	00311	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	柏木 明子						9		9
前期	木3・4	00312	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	千田 峰生						9		9
前期	木3・4	00313	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	比留間 潔						9		9
前期	木3・4	00314	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	田中 和明						9		9
前期	木3・4	00315	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	本多 和茂						7		7
前期	木3・4	00316	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	松崎 正敏						7		7
前期	木3・4	00317	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	張 樹槐						6		6
前期	木3・4	00318	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	澁谷 長生						7		7
前期	木3・4	00319	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	武田 共治						7		7
前期	木3・4	00320	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	石塚 哉史						5		5
前期	木3・4	00321	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	泉 完						10		10
前期	木3・4	00322	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	加藤 幸						10		10
前期	木3・4	00323	基礎ゼミナール【農学生命科学部】	佐々木 長市						10		10
前期	火1・2	00084	英語 I A	ハートセールブライアン		7			22			29

6 21世紀教育授業実施結果

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	火1・2	00085	英語ⅠA	吉川 エリサベス		8			20			28
前期	火1・2	00086	英語ⅠA	中村 裕昭		9			21			30
前期	火1・2	00087	英語ⅠA	バーマン シャーラー		10			19		1	30
前期	火1・2	00088	英語ⅠA	アダム セラグ		8			22			30
前期	水1・2	00179	英語ⅠA	ハートセールブライアン	32						1	33
前期	水3・4	00221	英語ⅠA	吉川 エリサベス				4		19		23
前期	水3・4	00222	英語ⅠA	中村 裕昭				5		19		24
前期	水3・4	00223	英語ⅠA	アダム セラグ				6	1	16		23
前期	木1・2	00276	英語ⅠB	上松 一		8			21			29
前期	木1・2	00277	英語ⅠB	内海 淳		9			20			29
前期	木1・2	00278	英語ⅠB	小野寺 進		10			19			29
前期	木1・2	00279	英語ⅠB	木村 宣美		8			22			30
前期	木1・2	00280	英語ⅠB	田中 一隆		8			22			30
前期	金1・2	00395	英語ⅠB	奥野 浩子				6	1	16	1	24
前期	金1・2	00396	英語ⅠB	澤田 真一				5		19		24
前期	金1・2	00397	英語ⅠB	山本 秀樹				4		19		23
前期	金3・4	00410	英語ⅠB	奥野 忠徳	32							32
前期	火1・2	00089	英語ⅡA	堀 智弘	1	18		1	18			38
前期	火1・2	00090	英語ⅡA	内海 淳		19			19			38
前期	火1・2	00091	英語ⅡA	小野寺 進		18			19			37
前期	火1・2	00092	英語ⅡA	ウェスタホーベン,J.N		18			17			35
前期	火1・2	00093	英語ⅡA	カーベントナー,V.L		19			18			37
前期	火1・2	00094	英語ⅡA	ラウシュ,A.S		19			16	1	3	39
前期	火1・2	00095	英語ⅡA	野呂 徳治		17			18	1		36
前期	火1・2	00096	英語ⅡA	今井 文		18		1	18	1		38
前期	火1・2	00097	英語ⅡA	ヒューゴツソ,A.O		17			18	1		36
前期	火1・2	00098	英語ⅡA	荒田 弘美 マクマナス		22			17			39
前期	火1・2	00099	英語ⅡA	須々田 友子		21			16			37
前期	火1・2	00100	英語ⅡA	小笠原 淑子	2	19			15		1	37
前期	火1・2	00101	英語ⅡA	佐々木 志織		18		1	17	2		38
前期	水1・2	00180	英語ⅡA	上松 一	27		8		1			36
前期	水1・2	00181	英語ⅡA	小嶋 英夫	27	2	8					37
前期	水1・2	00182	英語ⅡA	フリップス,J.E	28		8			1		37
前期	水1・2	00183	英語ⅡA	ラウシュ,A.S	29		6					35
前期	水1・2	00184	英語ⅡA	今井 文	27		8		1			36
前期	水1・2	00185	英語ⅡA	ヒューゴツソ,A.O	28		8				3	39
前期	水1・2	00186	英語ⅡA	荒田 弘美 マクマナス	24		9	1				34
前期	水1・2	00187	英語ⅡA	藤森 千博	27	1	8					36
前期	水1・2	00188	英語ⅡA	エドワード・フォーサイス	27		8					35
前期	水1・2	00189	英語ⅡA	倉内 早苗	29		7			1		37
前期	水1・2	00190	英語ⅡA	アップル,M	29		7					36
前期	水1・2	00191	英語ⅡA	高橋 栄作	23		9		1	1		34
前期	水1・2	00192	英語ⅡA	佐々木 志織	25		9		1			35
前期	水3・4	00224	英語ⅡA	奥野 浩子				18		13		31
前期	水3・4	00225	英語ⅡA	木村 宣美		1		16		14		31
前期	水3・4	00226	英語ⅡA	澤田 真一				16	3	10		29
前期	水3・4	00227	英語ⅡA	ウェスタホーベン,J.N				18	1	12		31
前期	水3・4	00228	英語ⅡA	バーマン シャーラー				17	1	12	1	31
前期	水3・4	00229	英語ⅡA	村山 陽平				19		12		31
前期	水3・4	00230	英語ⅡA	サワダ,H.J				19		12		31
前期	水3・4	00231	英語ⅡA	ヒューゴツソ,A.O	1			18	1	11		31
前期	水3・4	00232	英語ⅡA	荒田 弘美 マクマナス				18		11		29
前期	水3・4	00233	英語ⅡA	倉内 早苗	1			18		12		31
前期	水3・4	00234	英語ⅡA	アップル,M	1			17		13		31
前期	木1・2	00281	英語ⅡB	市原 聡子		18			17			35

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	木1・2	00282	英語ⅡB	奥野 忠徳		18			17			35
前期	木1・2	00283	英語ⅡB	小嶋 英夫		15		1	17			33
前期	木1・2	00284	英語ⅡB	山本 秀樹		15			17	1		33
前期	木1・2	00285	英語ⅡB	カーペンター,V.L		14			18			32
前期	木1・2	00286	英語ⅡB	野呂 徳治		20			14			34
前期	木1・2	00287	英語ⅡB	今井 文		17		1	16			34
前期	木1・2	00288	英語ⅡB	ヒューゴソン,A.O		14		1	16	2		33
前期	木1・2	00289	英語ⅡB	荒田 弘美 マクマナス		14			18			32
前期	木1・2	00290	英語ⅡB	藤森 千博		19			12			31
前期	木1・2	00291	英語ⅡB	須々田 友子		14			21			35
前期	木1・2	00292	英語ⅡB	小嶋 裕子		18			15	1		34
前期	木1・2	00293	英語ⅡB	高橋 栄作		18			17			35
前期	木1・2	00294	英語ⅡB	佐々木 志織	1	17		1	15	1		35
前期	金1・2	00398	英語ⅡB	市原 聡子	1			18		14		33
前期	金1・2	00399	英語ⅡB	石堂 哲也				19		11		30
前期	金1・2	00400	英語ⅡB	藤森 千博	1			18		12		31
前期	金1・2	00401	英語ⅡB	小笠原 淑子	1			16	1	14		32
前期	金1・2	00402	英語ⅡB	川浪 亜弥子	2	1		18		13		34
前期	金1・2	00403	英語ⅡB	倉内 早苗				18	1	13		32
前期	金1・2	00404	英語ⅡB	アップル,M	3			17		11		31
前期	金1・2	00405	英語ⅡB	曾我 純子				17		14	1	32
前期	金1・2	00406	英語ⅡB	多田 恵実				19		12		31
前期	金1・2	00407	英語ⅡB	小嶋 裕子	2			18		12		32
前期	金1・2	00408	英語ⅡB	高橋 栄作		1		17		15		33
前期	金3・4	00411	英語ⅡB	堀 智弘	25		6					31
前期	金3・4	00412	英語ⅡB	田中 一隆	26		7					33
前期	金3・4	00413	英語ⅡB	石堂 哲也	25		7			1	1	34
前期	金3・4	00414	英語ⅡB	今井 文	25	1	6		1			33
前期	金3・4	00415	英語ⅡB	藤森 千博	23		7			1		31
前期	金3・4	00416	英語ⅡB	川浪 亜弥子	21		7			1		29
前期	金3・4	00417	英語ⅡB	エドワード・フォーサイス	21		8				1	30
前期	金3・4	00418	英語ⅡB	倉内 早苗	22		8		1			31
前期	金3・4	00419	英語ⅡB	アップル,M	19		9			1		29
前期	金3・4	00420	英語ⅡB	曾我 純子	27		8					35
前期	金3・4	00421	英語ⅡB	多田 恵実	27		8					35
前期	金3・4	00422	英語ⅡB	小嶋 裕子	26		8					34
前期	金3・4	00423	英語ⅡB	高橋 栄作	27		6					33
前期	金3・4	00424	英語ⅡB	佐々木 志織	27		8					35
前期	水1・2	00193	英語ⅢA	村山 陽平	1	1			5			7
前期	金3・4	00425	英語ⅢB	フリップス,J.E	2	2			2		1	7
前期	水3・4,金1・2	00235	ドイツ語Ⅰ①	田中 岩男	36							36
前期	水3・4,金1・2	00236	ドイツ語Ⅰ②	齋藤 義彦	23							23
前期	水3・4,金1・2	00237	ドイツ語Ⅰ③	福島 伸雄	32							32
前期	水3・4,金1・2	00238	ドイツ語Ⅰ④	田中 壽子		15	9					24
前期	水3・4,金1・2	00239	ドイツ語Ⅰ⑤	山本 由起		25						25
前期	水3・4,金1・2	00240	ドイツ語Ⅰ⑥	相馬 伸子			29					29
前期	水1・2,金3・4	00194	ドイツ語Ⅰ⑦	山本 由起				6	25			31
前期	水1・2,金3・4	00195	ドイツ語Ⅰ⑧	田中 壽子					29			29
前期	水1・2,金3・4	00196	ドイツ語Ⅰ⑨	福島 伸雄					36			36
前期	水1・2,金3・4	00197	ドイツ語Ⅰ⑩	田中 美由紀				20	15			35
前期	水1・2,金3・4	00199	ドイツ語Ⅰ⑪	齋藤 義彦				14		21		35
前期	水1・2,金3・4	00200	ドイツ語Ⅰ⑫	相馬 伸子				9		24		33
前期	水3・4,金1・2	00241	フランス語Ⅰ①	熊野 真規子	34							34
前期	水3・4,金1・2	00242	フランス語Ⅰ②	工藤 貴子	35							35
前期	水3・4,金1・2	00243	フランス語Ⅰ③	松山 和子	20		13					33

6 21世紀教育授業実施結果

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	水3・4,金1・2	00244	フランス語Ⅰ④	ジャンソン,M		1	32					33
前期	水3・4,金1・2	00245	フランス語Ⅰ⑤	泉谷 安規	1	18	17					36
前期	水3・4,金1・2	00246	フランス語Ⅰ⑥	マチュー・コキュラン		33						33
前期	水1・2,金3・4	00201	フランス語Ⅰ⑦	泉谷 安規		1			33			34
前期	水1・2,金3・4	00202	フランス語Ⅰ⑧	ジャンソン,M					32		1	33
前期	水1・2,金3・4	00203	フランス語Ⅰ⑨	小笠原 淑子				18	14			32
前期	水1・2,金3・4	00204	フランス語Ⅰ⑩	松山 和子				30		7		37
前期	水1・2,金3・4	00205	フランス語Ⅰ⑪	工藤 貴子				5		30		35
前期	水1・2,金3・4	00206	フランス語Ⅰ⑫	マチュー・コキュラン				15		17		32
前期	火3・4	00138	フランス語Ⅱ(A)	熊野 真規子	5							5
前期	木3・4	00330	フランス語Ⅱ(B)	ジャンソン,M	4							4
前期	木1・2	00297	フランス語Ⅲ	工藤 貴子	25	4			3			32
前期	水3・4,金1・2	00247	中国語Ⅰ①	李 梁	41							41
前期	水3・4,金1・2	00248	中国語Ⅰ②	城本 るみ	40							40
前期	水3・4,金1・2	00249	中国語Ⅰ③	楊 天曦	41							41
前期	水3・4,金1・2	00250	中国語Ⅰ④	顧 国玉	33	6						39
前期	水3・4,金1・2	00251	中国語Ⅰ⑤	許 紅		41						41
前期	水3・4,金1・2	00252	中国語Ⅰ⑥	李 淑賢		40						40
前期	水3・4,金1・2	00253	中国語Ⅰ⑦	林 雁青		40						40
前期	水1・2,金3・4	00207	中国語Ⅰ⑧	林 雁青				50				50
前期	水1・2,金3・4	00208	中国語Ⅰ⑨	許 紅				27	23			50
前期	水1・2,金3・4	00209	中国語Ⅰ⑩	李 淑賢					50			50
前期	水1・2,金3・4	00210	中国語Ⅰ⑪	楊 天曦					24	26		50
前期	水1・2,金3・4	00211	中国語Ⅰ⑫	顧 国玉						49		49
前期	水3・4	00254	ロシア語①	レウトバ・オルガ	9	9			1	3		22
前期	水1・2	00212	朝鮮語Ⅰ②	尹 永愛				15	21	12	1	49
前期	水3・4	00255	朝鮮語Ⅰ①	尹 永愛	19	32			1			52
前期	木1・2	00295	特設言語(スペイン語Ⅰ)	富田 晃	17			3		3		23
前期	木3・4	00324	特設言語(スペイン語Ⅲ)	富田 晃	1							1
前期	集中	00462	スポーツ実技(アクア・スポーツ)	大島 義晴		10				2		12
前期	金5・6	00427	スポーツ実技(エアロビック・ダンス・エクササイズ)	佐々木 美鈴	5	3		16		1		25
前期	集中	00463	スポーツ実技(キャンプB)	棟方 達也	3			6	3	2		14
前期	火3・4	00135	スポーツ実技(サッカーA)	船水 友治	16			5	11	3		35
前期	水3・4	00256	スポーツ実技(サッカーB)	齊藤 真悟	1			4	10	3		18
前期	水5・6	00270	スポーツ実技(ソフトボール)	東 好弘	27	3			11	7		48
前期	水7・8	00275	スポーツ実技(ソフトボール)	東 好弘	9	3			18	1		31
前期	木5・6	00341	スポーツ実技(バドミントンA)	横山 正二	4			19	10	16	2	51
前期	木7・8	00364	スポーツ実技(バドミントンA)	横山 正二	16				22	2		40
前期	木3・4	00325	スポーツ実技(ハレーボールⅠ)	工藤 敏光	27			7	13			47
前期	火3・4	00134	スポーツ実技(フィットネス)	大島 義晴	12			5	4	5		26
前期	水5・6	00269	スポーツ実技(卓球A)	丹藤 貴	27	3			5	14		49
前期	水7・8	00274	スポーツ実技(卓球A)	丹藤 貴	18	1			27	3		49
前期	木7・8	00365	スポーツ実技(卓球B)	石川 孝	1	2		1	1	1		6
前期	木5・6	00342	スポーツ実技(舞踊A)	伊藤 道子	9			2		3	7	21
前期	月1・2	00001	体育実技(基本運動)	清水 紀人・他	1	157						158
前期	月3・4	00029	体育実技(トレーニング)	高橋 俊哉	1	30			1			32
前期	月3・4	00028	体育実技(バスケットボール)	本間 正行		24				2		26
前期	月3・4	00030	体育実技(バドミントン)	上野 秀人	2	35				1		38
前期	木9・10	379	音楽実技	杉原 かおり・他	2	6			1		1	10
前期	木9・10	00381	美術実技(A)	蝦名 敦子	4	8		2	1			15
前期	木9・10	00383	美術実技(B)	富田 晃	1	6		6				13
前期	火9・10	00173	哲学の基礎②	横地 徳広	68	78	30	22	46	23		267
前期	木5・6	00343	哲学の基礎①	清水 明	12	12	1	8	19	10		62
前期	木7・8	00366	哲学の基礎④	澤 佳成	53	16	3		27	3		102
前期	木5・6	00344	言語学の基礎①	佐藤 和之	44	6		6	1	7	1	65

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	木5・6	00345	言語学の基礎②	郡 千寿子	26	20	5	8	8	6	1	74
前期	木5・6	00346	言語学の基礎⑤	川瀬 卓	7	3		1	3	4		18
前期	木5・6	00347	文学の基礎①	渡邊 麻里子	63	25	1	3	1	19	3	115
前期	木7・8	00367	芸術学の基礎②	朝山 奈津子	23	18	1		22	7	2	73
前期	火7・8	00162	心理学の基礎①	菅野 幸宏・他	36	48	81	42	38	11		256
前期	木9・10	00385	心理学の基礎②	花屋 道子・他	47	40	2	15	46	8	2	160
前期	木9・10	00386	心理学の基礎④	吉中 淳・他	66	36	1	9	41	8		161
前期	木7・8	00368	教育学の基礎①	深作 拓郎・他	43	80	3		76	16		218
前期	金7・8	00443	教育学の基礎②	深作 拓郎・他	63	120		38	22	7		250
前期	金7・8	00444	古典語実習(漢文A)	植木 久行	16	3		1	1			21
前期	木7・8	00369	古典語実習(ギリシア語Ⅰ)	今井 正浩	30	2			2	1		35
前期	火5・6	00151	会計学の基礎	金籐 正直	147	2		6	9	9		173
前期	火5・6	00152	経営学の基礎	岩田 一哲	67	36					1	104
前期	木5・6	00348	経営学の基礎	森 樹男	132	22		6	25	15	1	201
前期	火5・6	00153	経済学の基礎(A)	李 永俊	38	24	1	7	26	17		113
前期	火9・10	00174	経済学の基礎(B)	福田 進治	90	6		1	49	8		154
前期	火7・8	00163	経済学の基礎(C)	鈴木 和雄	124	5		5	29	4		167
前期	火7・8	00164	社会学の基礎①	高瀬 雅弘・他	87	69	1	16	13	16		202
前期	金5・6	00428	社会学の基礎②	高瀬 雅弘・他	98	49		17	35	5		204
前期	木7・8	00370	地理学の基礎①	檜垣 大助・他	20	19			45	19		103
前期	木7・8	00371	地理学の基礎②	後藤 雄二・他	44	33			25	15		117
前期	木9・10	00387	法学の基礎①	平野 潔	53	14		1	10	3		81
前期	金5・6	00429	法学の基礎②	吉村 顕真	57	14		3	10	1		85
前期	火7・8	00165	歴史学の基礎(A)	荷見 守義	63	58		7	10	7		145
前期	木9・10	00388	歴史学の基礎(B)	松井 太	33	11		1	7	8		60
前期	金5・6	00430	歴史学の基礎(C)	齊藤 利男・他	63	64		7	27	6		167
前期	木3・4	00326	日本国憲法①	宮崎 秀一	1	197		1				199
前期	木3・4	00331	日本国憲法③	大竹 昭裕		44		16	1	25		86
前期	集中	00464	日本国憲法②	大竹 昭裕	4	1		1	64			70
前期	木5・6	00349	数学の基礎Ⅰ(A)①	田中 義久	41	86						127
前期	木7・8	00372	数学の基礎Ⅰ(A)②	中野 博之	113	33						146
前期	木5・6	00350	数学の基礎Ⅰ(B)①	山形 昌弘	6	3						9
前期	木5・6	00351	数学の基礎Ⅰ(B)②	岡部 考宏				7	2	1		10
前期	火5・6	00154	数学の基礎Ⅱ(A)①	西澤 道知	7	19		23		3		52
前期	火5・6	00155	数学の基礎Ⅱ(A)②	小松 尚夫					42			42
前期	火5・6	00156	数学の基礎Ⅱ(A)③	丹原 大介					39			39
前期	火5・6	00157	数学の基礎Ⅱ(A)④	別宮 耕一					46			46
前期	火5・6	00158	数学の基礎Ⅱ(A)⑥	一條 健司					61			61
前期	火5・6	00159	数学の基礎Ⅱ(A)⑦	福田 眞					59			59
前期	火7・8	00166	数学の基礎Ⅱ(A)⑤	葛西 真寿					58			58
前期	火9・10	00175	数学の基礎Ⅱ(B)①	藤崎 浩幸	19	17				84		120
前期	火9・10	00176	数学の基礎Ⅱ(B)②	石戸 俊雄				49				49
前期	木3・4	00327	数学の基礎Ⅱ(B)⑦	丹波 澄雄					60			60
前期	木5・6	00352	数学の基礎Ⅱ(B)③	小林 真平					45			45
前期	木5・6	00353	数学の基礎Ⅱ(B)④	山本 征法					43			43
前期	木5・6	00354	数学の基礎Ⅱ(B)⑤	津田谷 公利					47			47
前期	木5・6	00355	数学の基礎Ⅱ(B)⑥	津村 浩三					58			58
前期	木5・6	00356	数学の基礎Ⅱ(B)⑧	麓 耕二					61			61
前期	火3・4	00139	数学の基礎Ⅱ(C)⑥	佐藤 裕之					12			12
前期	金5・6	00431	物理学の基礎Ⅰ(B)	遠田 義晴			37					37
前期	金5・6	00432	物理学の基礎Ⅰ(B)	松本 光比古	2	28		34				64
前期	金5・6	00433	物理学の基礎Ⅰ(B)	手塚 泰久					40	17		57
前期	金5・6	00434	物理学の基礎Ⅰ(B)	小豆畑 敬						67		67
前期	火7・8	00167	物理学の基礎Ⅱ(A)	深瀬 政秋					61			61
前期	火7・8	00168	物理学の基礎Ⅱ(A)	齊藤 玄敏					59			59

6 21世紀教育授業実施結果

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	金5・6	00435	物理学の基礎Ⅱ(A)	黒川 敦			65	2				67
前期	金5・6	00436	物理学の基礎Ⅱ(A)	浅田 秀樹					39			39
前期	金5・6	00437	物理学の基礎Ⅱ(A)	宮永 崇史					60			60
前期	金5・6	00438	物理学の基礎Ⅱ(A)	倉又 秀一					53			53
前期	金5・6	00439	物理学の基礎Ⅱ(A)	泉 完	1					89	3	93
前期	月9・10	00083	物理学の基礎Ⅱ(D)	中原 岳久				41				41
前期	金5・6	00440	物理学の基礎Ⅱ(D)	中原 岳久				41				41
前期	火9・10	00178	物理学の基礎Ⅱ(E)	小野 俊郎・他					62			62
前期	金7・8	00445	化学の基礎Ⅰ(A)	長南 幸安	22	15						37
前期	木5・6	00357	化学の基礎Ⅰ(B)④	中川 公一・他				51				51
前期	金7・8	00446	化学の基礎Ⅰ(B)①	須藤 新一	4	8			26	30		68
前期	金7・8	00447	化学の基礎Ⅰ(B)②	北川 文彦					66			66
前期	金7・8	00448	化学の基礎Ⅰ(B)③	中村 敏也			98					98
前期	月5・6	00042	化学の基礎Ⅱ(A)①	岡崎 雅明	1	1						2
前期	金7・8	00449	化学の基礎Ⅱ(A)②	阿部 敏之					87			87
前期	金7・8	00450	化学の基礎Ⅱ(A)③	加藤 博雄					24			24
前期	金7・8	00451	化学の基礎Ⅱ(A)④	坂元 君年						81		81
前期	金7・8	00452	化学の基礎Ⅱ(A)⑤	橋本 勝						65	2	67
前期	月7・8	00062	化学の基礎Ⅱ(B)①	澤田 英夫		1			12	14		27
前期	木7・8	00373	化学の基礎Ⅱ(C)①	宮入 一夫						65		65
前期	金7・8	00453	化学の基礎Ⅱ(D)①	石川 孝				41				41
前期	金9・10	00456	化学の基礎Ⅱ(D)②	石川 孝				41				41
前期	金7・8	00454	化学の基礎Ⅱ(E)	糠塚 いそし					46			46
前期	月5・6	00043	化学の基礎Ⅱ(F)	長岐 正彦					49			49
前期	火7・8	00169	生物学の基礎Ⅰ(A)②	戸羽 隆宏・他	49	27						76
前期	火9・10	00177	生物学の基礎Ⅰ(A)③	荒川 修・他	80	39						119
前期	金9・10	00457	生物学の基礎Ⅰ(A)④	岩井 草介	68	54						122
前期	金9・10	00458	生物学の基礎Ⅰ(B)①	佐野 輝男・他		9	3	40	55	15		122
前期	金9・10	00459	生物学の基礎Ⅰ(B)②	山田 俊幸・他		6	63	28	39	11		147
前期	木9・10	00389	生物学の基礎Ⅱ(A)①	大河 浩・他			31		14	42		87
前期	木9・10	00390	生物学の基礎Ⅱ(A)④	千田 峰生・他	1		5	1	11	76		94
前期	木7・8	00374	生物学の基礎Ⅱ(B)①	古川 賢一・他	1		37	2	10	42		92
前期	火7・8	00170	生物学の基礎Ⅱ(C)①	大高 明史・他	2		1	5		131		139
前期	金7・8	00455	生物学の基礎Ⅱ(D)①	三浦 富智・他				40				40
前期	金9・10	00460	生物学の基礎Ⅱ(D)②	三浦 富智・他				41				41
前期	木9・10	00391	地学の基礎Ⅰ(A)	鎌田 耕太郎・他	76	34						110
前期	金5・6	00441	地学の基礎Ⅰ(A)	葛西 真寿	85	49						134
前期	木9・10	00392	地学の基礎Ⅰ(B)	佐々木 実	7	15		5	81	16		124
前期	金9・10	00461	地学の基礎Ⅰ(B)	根本 直樹	24	17		23	38	42		144
前期	火7・8	00171	地学の基礎Ⅱ(A)	柴 正敏	5	13			33	25	1	77
前期	木7・8	00375	地学の基礎Ⅱ(B)	小菅 正裕	1				29	13		43
前期	火5・6	00160	統計学の基礎⑬	谷口 建						77		77
前期	木5・6	00358	統計学の基礎⑦	石川 隆二・他						7		7
前期	木5・6	00359	統計学の基礎⑧	荒川 修・他						38		38
前期	木9・10	00393	統計学の基礎⑨	井瀧 千恵子・他				83				83
前期	火5～10	00466	基礎科学実験	上野 伸哉・他			105					105
前期	月1・2	00002	情報Ⅰ①	福地 博						78		78
前期	月1・2	00003	情報Ⅰ②	高橋 照夫						72		72
前期	月1・2	00004	情報Ⅰ③	角野 三好						39		39
前期	月3・4	00031	情報Ⅰ④	増山 篤	76						1	77
前期	月3・4	00032	情報Ⅰ⑤	丹波 澄雄	72							72
前期	月5・6	00044	情報Ⅰ⑥	張 樹槐	71							71
前期	月5・6	00045	情報Ⅰ⑦	小山 智史	69							69
前期	月7・8	00061	情報Ⅰ⑧	大橋 忠宏	69							69
前期	火3・4	00136	情報Ⅰ⑨	松谷 秀哉			101					101

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	火3・4	00137	情報Ⅰ⑩	岡崎 功					41			41
前期	水1・2	00213	情報Ⅰ⑪	山本 逸郎		79						79
前期	水1・2	00214	情報Ⅰ⑫	水田 智史		80						80
前期	水3・4	00257	情報Ⅰ⑬	長瀬 智行					46			46
前期	水3・4	00258	情報Ⅰ⑭	市村 雅一					58			58
前期	水5・6	00271	情報Ⅰ⑮	種田 晃人					60			60
前期	水5・6	00272	情報Ⅰ⑯	鈴木 裕史					39			39
前期	木1・2	00296	情報Ⅰ⑰	野坂 大喜				80				80
前期	木3・4	00328	情報Ⅰ⑱	野坂 大喜・他				80				80
前期	木3・4	00329	情報Ⅰ⑲	佐川 貢一		16		40				56
前期	金1・2	00409	情報Ⅰ⑳	笹川 和彦					59			59
前期	金3・4	00426	情報Ⅰ㉑	片岡 俊一		80						80
前期	水3・4	00259	情報Ⅲ①	斎藤 稔					61			61
前期	水3・4	00260	保健体育学の基礎(B)①	高橋 俊哉・他	41					20	1	62
前期	水3・4	00261	保健体育学の基礎(B)②	戸塚 学・他				18	57			75
前期	木7・8	00376	放射線防護の基礎	若山 佐一・他	2		1	170	2	1		176
前期	木7・8	00377	国際社会を考える(F)	齊藤 利男・他	19	30		1	5	9	1	65
前期	集中集中	00465	国際交流を考える(C)	福田 健一	42	6	7	22	11	11	1	100
前期	木5・6	00360	国際地域を考える(H)	作道 信介	15	11		1	8	18		53
前期	火3・4	00140	21世紀の環境問題(A)②	伊藤 大雄・他	13	2		10	9	5		39
前期	水1・2	00215	21世紀の環境問題(A)①	児玉 安正・他	19	5		10	7	11		52
前期	水3・4	00332	21世紀の環境問題(B)	泉谷 真実	1				1	1		3
前期	火3・4	00141	環境と生活(B)	長南 幸安・他	14	4		10	12	4		44
前期	木3・4	00333	環境と生活(F)	稲葉 孝志	45	4		26	13	39		127
前期	火1・2	00102	環境と社会(B)	山口 恵子・他	12	15		2	3	2		34
前期	水1・2	00216	環境と資源(B)	工藤 明	14	6		4	4	6		34
前期	火1・2	00103	環境と資源(G)	荒井 一成	2	1				3		6
前期	木3・4	00334	環境との共生(B)	北原 啓司・他	55	16		9	8	8		96
前期	木1・2	00298	環境との共生(C)	鶴見 實	9	3		4	6	8		30
前期	水5・6	00273	生活習慣と健康(L)	伊藤 悦朗・他	37	27		8	12	23		107
前期	水3・4	00262	生活習慣と健康(E)	田中 完・他	71	14		21	19	15	1	141
前期	火1・2	00104	メンタルヘルス(C)	田名場 美雪・他	13	12		30	7	5	1	68
前期	火1・2	00105	メンタルヘルス(D)	豊嶋 秋彦・他	16	18		13	12	1		60
前期	火5・6	00161	最新医学の現状(J)	高井 良尋・他	68	63		10	56	69		266
前期	水5・6	00361	最新医学の現状(K)	高井 良尋・他	14	10		1	18	12		55
前期	火1・2	00106	運動とリハビリテーション(A)	野戸 結花・他	3	9		10		1		23
前期	火1・2	00107	運動とリハビリテーション(D)	平川 裕一	1			11		1		13
前期	水3・4	00263	科学・技術の発達(D)	祐川 幸一	7	1		4	3	3		18
前期	水1・2	00217	科学・技術の発達(H)	東 徹・他	20	8		8	10	2		48
前期	水3・4	00264	科学・技術の最前線(A)	匂坂 康男	30	4		9	37	13		93
前期	火3・4	00142	科学・技術の最前線(F)	有賀 義明	14				3	1		18
前期	火3・4	00143	科学・技術の最前線(H)	丹波 澄雄	13	1		20	13	4		51
前期	火3・4	00144	生活の科学・技術(A)	鳥飼 宏之・他	16	2		17	3	2		40
前期	水3・4	00265	生活の科学・技術(B)①	橋本 勝・他	13	2		4	8	11		38
前期	火1・2	00108	生活の科学・技術(C)	吉田 孝	23	16		17	6	19		81
前期	火1・2	00109	生物の科学・技術(A)①	大高 明史	4	14		1	2	4		25
前期	火1・2	00110	生物の科学・技術(B)②	大町 鉄雄・他	6	10		13	8	13		50
前期	木3・4	00336	生物の科学・技術(B)①	柏倉 幾郎・他	4	3		6		11		24
前期	木3・4	00335	科学・技術の発達(J)	樽澤 孝悦	11	3		3	12	7		36
前期	火3・4	00145	社会と経済(A)①	船木 洋一	1	2			1	1		5
前期	水1・2	00218	社会と経済(C)	秋葉 まり子	31	6		2	8	2		49
前期	木7・8	00146	市民生活と地域社会(G)	檜横 貢	14	3						17
前期	水1・2	00219	市民生活と地域社会(J)	日景 弥生	10	5				1		16
前期	火1・2	00111	芸術の世界(B)Ⅱ	宮坂 朋	9	4		2	1	2		18
前期	木3・4	00337	芸術の世界(C)	岩井 康頼	41	16		29	18	35	1	140

6 21世紀教育授業実施結果

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
前期	火3・4	00147	思想・文学の世界(I)	小野寺 進	12	1		1	6	2		22
前期	火1・2	00112	思想・文学の世界(H)	吉田 比呂子	1	6		5		1		13
前期	木5・6	00362	くらし・歴史・文化(B)	麓 信義	6	3			13	9		31
前期	木7・8	00378	思想・文学の世界(K)	仁平 政人	38	25			7	9	1	80
前期	水3・4	00267	人を育む営み(E)	川崎 くみ子・他	12	4		8	5	3	1	33
前期	水1・2	00220	人を育む営み(H)	増田 貴人・他	61	21		19	8	18	1	128
前期	水3・4	00266	人を育む営み(B)	小林 央美・他	15	4		6	13	1		39
前期	火3・4	00148	人間の尊厳(E)	小山内 隆生	17			9		5		31
前期	木5・6	00363	人間の尊厳(D)	諸岡 道比古	11	3			6	2		22
前期	木1・2	00299	人間のこれから(A)	藤田 昇治	7	3		4		1		15
前期	木3・4	00338	人間のこれから(C)	齋藤 厚・他	6	32		2	5	2		47
前期	木5・6	00339	人間のこれから(E)	猪瀬 武則								0
前期	火3・4	00149	社会と私-仕事を通して考える(A)-	小磯 重隆	60	12		50	22	20	2	166
前期	水3・4	00268	津軽学-歴史と文化-	田中 正弘	73	34		7	17	15		146
前期	火7・8	00172	社会と私-キャリア・デザイン論(C)-	小磯 重隆	28	20		6	18	5	1	78
前期	木1・2	00300	白神学入門(A)	中村 剛之・他	43	10		10	22	59		144
前期	火3・4	00150	社会と私-大学で身につけるべき力(E)-	田中 正弘	7			3	2	1		13
前期	木3・4	00340	社会参加活動	深作 拓郎・他	5	10		1	6	3		25
前期	木1・2	00301	太宰治研究	長谷川 成一・他	39	21		21	7	4	1	93
前期	金9・10	00467	東日本大震災復興論(A)	李 永俊・他	2	4	1		2			9
後期	水1・2	05079	英語 I A	中村 裕昭		1			3			4
後期	金3・4	05245	英語 I B	木村 宣美		3		1	18	4		26
後期	火1・2	05007	英語 II A	上松 一	22		3					25
後期	火1・2	05008	英語 II A	小嶋 英夫	21		2					23
後期	火1・2	05009	英語 II A	澤田 真一	24		2	1				27
後期	火1・2	05010	英語 II A	山本 秀樹	24		3					27
後期	火1・2	05011	英語 II A	カーペンター,V.L	27							27
後期	火1・2	05012	英語 II A	ラウシュ,A.S	22		1		1			24
後期	火1・2	05013	英語 II A	パート・セールブライアン	24		4	1				29
後期	火1・2	05014	英語 II A	中村 裕昭	29				1			30
後期	火1・2	05015	英語 II A	今井 文	23		2					25
後期	火1・2	05016	英語 II A	ヒューゴソン,A.O	24		3					27
後期	火1・2	05017	英語 II A	荒田 弘美 マクマナス	18		4		1			23
後期	火1・2	05018	英語 II A	藤森 千博	24		3					27
後期	火1・2	05019	英語 II A	小笠原 淑子	20		4		1			25
後期	火1・2	05020	英語 II A	倉内 早苗	24		2					26
後期	火1・2	05021	英語 II A	佐々木 志織	23		3		1			27
後期	水1・2	05080	英語 II A	市原 聡子		16			17			33
後期	水1・2	05081	英語 II A	奥野 浩子		16			17			33
後期	水1・2	05082	英語 II A	奥野 忠徳		10			20			30
後期	水1・2	05083	英語 II A	田中 一隆	2	8			19			29
後期	水1・2	05084	英語 II A	ウェスタホーベン,J.N	1	9			21			31
後期	水1・2	05085	英語 II A	フィリップス,J.E	2	10			14			26
後期	水1・2	05086	英語 II A	パート・セールブライアン	1	10			21			32
後期	水1・2	05087	英語 II A	今井 文		18			13			31
後期	水1・2	05088	英語 II A	ヒューゴソン,A.O		16			15			31
後期	水1・2	05089	英語 II A	荒田 弘美 マクマナス	1	16			15			32
後期	水1・2	05090	英語 II A	藤森 千博		17			14			31
後期	水1・2	05091	英語 II A	須々田 友子		17			16			33
後期	水1・2	05092	英語 II A	小笠原 淑子	2	15			16			33
後期	水1・2	05093	英語 II A	フォーサイス エドワート		15			16			31
後期	水1・2	05094	英語 II A	倉内 早苗		15			17			32
後期	水1・2	05095	英語 II A	アップル,M		17			13			30
後期	水1・2	05096	英語 II A	高橋 栄作		15			16			31
後期	水1・2	05097	英語 II A	佐々木 志織		17		1	15			33

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
後期	水3・4	05106	英語ⅡA	小野寺 進				15		12		27
後期	水3・4	05107	英語ⅡA	木村 宣美				17		12		29
後期	水3・4	05108	英語ⅡA	村山 陽平				19		11		30
後期	水3・4	05109	英語ⅡA	サワダ, H.J	1			15		12		28
後期	水3・4	05110	英語ⅡA	今井 文				17		12		29
後期	水3・4	05111	英語ⅡA	ヒューゴソン, A.O				17		11	1	29
後期	水3・4	05112	英語ⅡA	荒田 弘美 マクマナス				16		12		28
後期	水3・4	05113	英語ⅡA	藤森 千博						31		31
後期	水3・4	05114	英語ⅡA	須々田 友子				17		13		30
後期	水3・4	05115	英語ⅡA	倉内 早苗	2			16		11		29
後期	水3・4	05116	英語ⅡA	アップル, M				11		19		30
後期	水3・4	05117	英語ⅡA	高橋 栄作				16		14		30
後期	水3・4	05118	英語ⅡA	佐々木 志織	1			15		12		28
後期	木1・2	05135	英語ⅡB	堀 智弘	23		2					25
後期	木1・2	05136	英語ⅡB	上松 一	23		3					26
後期	木1・2	05137	英語ⅡB	内海 淳	25		1					26
後期	木1・2	05138	英語ⅡB	奥野 忠徳	20		5		2			27
後期	木1・2	05139	英語ⅡB	小野寺 進	23	1	3					27
後期	木1・2	05140	英語ⅡB	小嶋 英夫	24		2					26
後期	木1・2	05141	英語ⅡB	澤田 真一	27							27
後期	木1・2	05142	英語ⅡB	今井 文	20		2					22
後期	木1・2	05143	英語ⅡB	荒田 弘美 マクマナス	24		4					28
後期	木1・2	05144	英語ⅡB	藤森 千博	18		3					21
後期	木1・2	05145	英語ⅡB	香取 真理	30							30
後期	木1・2	05146	英語ⅡB	倉内 早苗	24		3	1				28
後期	木1・2	05147	英語ⅡB	曾我 純子	23		3		1	1		28
後期	木1・2	05148	英語ⅡB	高橋 栄作	23		1					24
後期	木1・2	05149	英語ⅡB	佐々木 志織	22		4					26
後期	金1・2	05223	英語ⅡB	奥野 浩子				17	1	11		29
後期	金1・2	05224	英語ⅡB	石堂 哲也				17		13		30
後期	金1・2	05225	英語ⅡB	今井 文				17		13		30
後期	金1・2	05226	英語ⅡB	ヒューゴソン, A.O	1			17		12		30
後期	金1・2	05227	英語ⅡB	藤森 千博	1			15	1	11		28
後期	金1・2	05228	英語ⅡB	小笠原 淑子				17	1	11		29
後期	金1・2	05229	英語ⅡB	川浪 亜弥子	1			15		13		29
後期	金1・2	05230	英語ⅡB	倉内 早苗				16	2	15		33
後期	金1・2	05231	英語ⅡB	アップル, M						31		31
後期	金1・2	05232	英語ⅡB	曾我 純子				17	1	11		29
後期	金1・2	05233	英語ⅡB	小嶋 裕子				11	1	19		31
後期	金1・2	05234	英語ⅡB	高橋 栄作	1			17	1	11		30
後期	金1・2	05235	英語ⅡB	佐々木 志織				19	1	11		31
後期	金3・4	05246	英語ⅡB	堀 智弘		16			16			32
後期	金3・4	05247	英語ⅡB	市原 聡子		10			20			30
後期	金3・4	05248	英語ⅡB	内海 淳		17			12			29
後期	金3・4	05249	英語ⅡB	田中 一隆		17			11			28
後期	金3・4	05250	英語ⅡB	山本 秀樹		16			15			31
後期	金3・4	05251	英語ⅡB	長南 幸安		16			15			31
後期	金3・4	05252	英語ⅡB	石堂 哲也		15			16			31
後期	金3・4	05253	英語ⅡB	ヒューゴソン, A.O		17			15			32
後期	金3・4	05254	英語ⅡB	藤森 千博		15			15			30
後期	金3・4	05255	英語ⅡB	小笠原 淑子		15			15			30
後期	金3・4	05256	英語ⅡB	川浪 亜弥子		17			14			31
後期	金3・4	05257	英語ⅡB	フォーサイス エドワード		16			15			31
後期	金3・4	05258	英語ⅡB	倉内 早苗		7			20			27
後期	金3・4	05259	英語ⅡB	アップル, M		11			17	1		29

6 21世紀教育授業実施結果

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
後期	金3・4	05260	英語ⅡB	曾我 純子		9			13			22
後期	金3・4	05261	英語ⅡB	多田 恵実		16			14			30
後期	金3・4	05262	英語ⅡB	小嶋 裕子		17			16			33
後期	金3・4	05263	英語ⅡB	高橋 栄作		9			20			29
後期	火1・2	05022	英語ⅢA	バーマン シャーラー	5		1					6
後期	火1・2	05023	英語ⅢA	アダム セラグ	5		1					6
後期	水1・2	05098	英語ⅢA	バーマン シャーラー	2	1			5			8
後期	水3・4	05119	英語ⅢA	アダム セラグ	1			1	1	6		9
後期	木1・2	05150	英語ⅢB	カーヘンター,V.L	5		1					6
後期	木1・2	05151	英語ⅢB	ラウシュ,A.S	5		1					6
後期	金1・2	05236	英語ⅢB	ウェスタホーヘン,J.N	1			1	1	6		9
後期	金3・4	05264	英語ⅢB	フリッツプス,J.E		1			4	1		6
後期	水3・4、金1・2	05120	ドイツ語Ⅰ①	福島 伸雄		2			5			7
後期	水1・2、金3・4	05099	ドイツ語Ⅰ②	田中 岩男	11			1		8		20
後期	水1・2	05100	ドイツ語Ⅱ(A)②	田中 美由紀	35					2		37
後期	金1・2	05237	ドイツ語Ⅱ(A)①	田中 美由紀	1	1			13			15
後期	水3・4	05121	ドイツ語Ⅱ(B)①	フールト,V.M		1			13			14
後期	金3・4	05265	ドイツ語Ⅱ(B)②	フールト,V.M	36					1		37
後期	水3・4、金1・2	05122	フランス語Ⅰ①	山井 淑子	12	5	1		2			20
後期	水1・2、金3・4	05101	フランス語Ⅰ②	工藤 貴子	1			1		5		7
後期	金3・4	05266	フランス語Ⅱ(A)①	松山 和子	19							19
後期	金1・2	05238	フランス語Ⅱ(A)②	松山 和子	12							12
後期	水3・4	05123	フランス語Ⅱ(A)③	小笠原 淑子		8			5			13
後期	金3・4	05267	フランス語Ⅱ(A)④	熊野 真規子	8	2				3		13
後期	水3・4	05124	フランス語Ⅱ(B)①	ジャンソン,M	23	1						24
後期	水3・4	05125	フランス語Ⅱ(B)②	松山 和子	11							11
後期	金1・2	05239	フランス語Ⅱ(B)③	ジャンソン,M		6	1		5			12
後期	金1・2	05240	フランス語Ⅱ(B)④	工藤 貴子	3	2						5
後期	水1・2	05102	フランス語Ⅱ(B)⑤	ジャンソン,M	2	1				3		6
後期	水3・4	05130	ロシア語Ⅱ(A)	レウトバ'オルガ	4	1				1		6
後期	金1・2	05244	ロシア語Ⅱ(B)	レウトバ'オルガ	3	1				1		5
後期	水1・2、金3・4	05103	中国語Ⅰ①	許 紅	4			4	1	10		19
後期	水3・4、金1・2	05126	中国語Ⅰ②	李 淑賢	6	9			9	2		26
後期	金1・2	05241	中国語Ⅱ(A)①	李 梁	13	3			4			20
後期	水1・2	05104	中国語Ⅱ(A)③	楊 天曦	19					3		22
後期	水3・4	05128	中国語Ⅱ(B)①	楊 天曦	13							13
後期	金1・2	05243	中国語Ⅱ(B)②	楊 天曦	19							19
後期	金3・4	05268	中国語Ⅱ(B)③	楊 天曦						3		3
後期	水3・4	05129	中国語Ⅱ(B)④	李 梁		3			4			7
後期	水1・2	05105	朝鮮語Ⅱ(A)	尹 永愛	7	1		1	2			11
後期	水3・4	05131	朝鮮語Ⅱ(B)	尹 永愛	4	2		1	2			9
後期	木1・2	05152	特設言語(スペイン語Ⅱ)	富田 晃	10	1						11
後期	木3・4	05153	特設言語(スペイン語Ⅳ)	富田 晃								0
後期	火1・2	05024	特設言語(タイ語Ⅰ)	大西 純	11	4	1	5	5	2	3	31
後期	金5・6	05269	スポーツ実技(エアロビック・ダンス・エクササイズ)	佐々木 美鈴	1	2		3	6	8	5	25
後期	水7・8	05134	スポーツ実技(サッカーA)	船水 友治	7	1			18	1		27
後期	水7・8	05133	スポーツ実技(バドミントンA)	横山 正二	21			16	14			51
後期	木3・4	05154	スポーツ実技(バレーボール2)	工藤 敏光	1	1		1	9	1	2	15
後期	木5・6	05169	スポーツ実技(舞踊A)	伊藤 道子	4	5				6	10	25
後期	集中	05298	スポーツ実技(スノーボード)	太田 誠耕・他	7	5		5	9	6		32
後期	木9・10	0520305204	音楽実技	島 一夫・他	4	7					4	15
後期	木9・10	0520505206	美術実技(C)	石川 善朗	2	11			1	1		15
後期	木9・10	05207	美術実技(E)	塚本 悦雄	2	5				1		8
後期	金9・10	05288	美術実技(F)	荒井 一成		1			4			5
後期	火5・6	05044	哲学の基礎③	木村 純二	22	13		5	12	7		59

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
後期	木5・6	05170	哲学の基礎⑤	五十嵐 靖彦	15	14			17	11		57
後期	火5・6	05045	言語学の基礎③	石山 裕慈	21	16		4	21	7		69
後期	火9・10	05069	言語学の基礎④	児玉 忠	16	47		8	5	6		82
後期	金7・8	05278	文学の基礎②	山田 厳子	59	47	1	11	27	17		162
後期	火5・6	05046	芸術学の基礎①	出 佳奈子	20	38		2	3	9		72
後期	月9・10	05002	心理学の基礎③	田名場 美雪・他	77	44		2	23	41		187
後期	月9・10	05003	教育学の基礎③	深作 拓郎・他	39	13			12	15		79
後期	金7・8	05279	教育学の基礎④	深作 拓郎・他	15	25		6	26	16		88
後期	火5・6	05047	古典語実習(漢文B)	山田 史生	7	3			5	2		17
後期	木7・8	05189	古典語実習(ギリシア語Ⅱ)	今井 正浩	13	1			1			15
後期	火5・6	05048	会計学の基礎	柴田 英樹	41	6			16	9		72
後期	火5・6	05049	経営学の基礎	大倉 邦夫・他	21	7			21	4		53
後期	火7・8	05061	経営学の基礎	高島 克史・他	27	23		13	21	7		91
後期	火7・8	05062	経済学の基礎(A)	嶋 恵一	81	4	1	1	22	9		118
後期	木7・8	05190	経済学の基礎(B)	飯島 裕胤	68				9	10		87
後期	月9・10	05004	経済学の基礎(C)	北島 誓子	23	8			3	3		37
後期	火7・8	05063	社会学の基礎③	高瀬 雅弘・他	38	54		48	27	33		200
後期	木9・10	05209	政治学の基礎(B)	村松 恵二	92	11		1	3	1		108
後期	木7・8	05191	地理学の基礎③	小岩 直人・他	15	5			11	23		54
後期	月9・10	05005	法学の基礎④	成田 史子	1				7			8
後期	金9・10	05290	法学の基礎③	飯 考行	43	10			8	5		66
後期	火5・6	05050	歴史学の基礎(D)	関根 達人	23	16		1	14	3		57
後期	木7・8	05192	歴史学の基礎(E)	加来 浩	100	13			12	28		153
後期	木3・4	05155	日本国憲法④	大竹 昭裕	46	18		1	2	4		71
後期	木7・8	05193	数学の基礎Ⅰ(A)③	伊藤 成治	29	3						32
後期	木5・6	05171	数学の基礎Ⅱ(A)⑧	山本 稔	1	1			23	2	1	28
後期	木7・8	05194	数学の基礎Ⅱ(B)⑨	立谷 洋平					9	1		10
後期	木7・8	05195	数学の基礎Ⅱ(C)①	榊 真					42			42
後期	木7・8	05196	数学の基礎Ⅱ(C)②	山本 征法					40			40
後期	木7・8	05197	数学の基礎Ⅱ(C)③	倉又 秀一					58			58
後期	木7・8	05198	数学の基礎Ⅱ(C)④	成田 明子					63			63
後期	木7・8	05199	数学の基礎Ⅱ(C)⑤	永瀬 範明					63			63
後期	月7・8	05001	数学の基礎Ⅱ(D)【S知能再履修者】	福田 眞								0
後期	火7・8	05064	物理学の基礎Ⅰ(A)	東 徹	31	39						70
後期	金9・10	05291	物理学の基礎Ⅱ(A)	高橋 龍一					37			37
後期	木9・10	05210	物理学の基礎Ⅱ(B)	松谷 秀哉			103					103
後期	木9・10	05211	物理学の基礎Ⅱ(B)	花田 修賢					60			60
後期	木9・10	05212	物理学の基礎Ⅱ(B)	渡辺 孝夫					41			41
後期	木9・10	05213	物理学の基礎Ⅱ(B)	市村 雅一					69			69
後期	木9・10	05214	物理学の基礎Ⅱ(B)	岡本 浩					61			61
後期	木9・10	05215	物理学の基礎Ⅱ(B)	小野 俊郎					62			62
後期	木9・10	05216	物理学の基礎Ⅱ(B)	高橋 信介	1	1				71		73
後期	金7・8	05280	物理学の基礎Ⅱ(C)	匂坂 康男					42			42
後期	金9・10	05292	化学の基礎Ⅱ(A)⑥	川上 淳	2	7		43	29	44		125
後期	金9・10	05293	化学の基礎Ⅱ(A)⑦	中澤 日出樹					61			61
後期	木5・6	05172	化学の基礎Ⅱ(B)②	吉澤 篤		4			26			30
後期	火9・10	05070	化学の基礎Ⅱ(B)③	佐藤 公彦			102	3				105
後期	火9・10	05071	化学の基礎Ⅱ(B)④	伊東 俊司					1	110		111
後期	月9・10	05006	化学の基礎Ⅱ(C)②	姫野 俵太						36		36
後期	火9・10	05072	化学の基礎Ⅱ(G)	喜多 昭一					65			65
後期	火9・10	05073	生物学の基礎Ⅰ(A)①	千葉 正司・他	32	32						64
後期	金9・10	05294	生物学の基礎Ⅱ(A)②	大町 鉄雄・他	2	2	10	3	20	17		54
後期	木9・10	05217	生物学の基礎Ⅱ(A)③	城田 安幸・他	1				2	23		26
後期	木9・10	05218	生物学の基礎Ⅱ(B)②	鈴木 裕之・他					2	22		24
後期	金9・10	05295	生物学の基礎Ⅱ(B)③	園木 和典・他	1		4	2	32	66		105

6 21世紀教育授業実施結果

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
後期	木7・8	05200	生物学の基礎Ⅱ(C)②	佐原 雄二	1		44		2	35		82
後期	火7・8	05065	生物学の基礎Ⅱ(C)③	東 信行・他	1	2	21	15	8	49		96
後期	火9・10	05074	生物学の基礎Ⅱ(E)	原田 竹雄	6	8						14
後期	木9・10	05219	地学の基礎Ⅰ(A)	植田 勇人・他	32	36						68
後期	木9・10	05220	地学の基礎Ⅰ(B)	根本 直樹	7	8			5	28		48
後期	金7・8	05281	地学の基礎Ⅱ(A)	氏家 良博	3	6			53	47		109
後期	木5・6	05173	地学の基礎Ⅱ(B)	佐藤 魂夫	3	3			40	50		96
後期	木5・6	05174	統計学の基礎①	李 秀眞		71						71
後期	火3・4	05027	統計学の基礎②	日比野 愛子	51							51
後期	火7・8	05066	統計学の基礎③	廣田 淳一				48	12			60
後期	火5・6	05051	統計学の基礎④	杉本 知之					45			45
後期	火9・10	05075	統計学の基礎⑤	吉岡 良雄					83			83
後期	火9・10	05076	統計学の基礎⑥	飯倉 善和					74			74
後期	火9・10	05077	統計学の基礎⑪	對馬 栄輝				76				76
後期	木5・6	05175	統計学の基礎⑫	笠原 幹	96							96
後期	火9・10	05078	情報Ⅰ(22)	佐藤 友暁	16	6		1	4	6		33
後期	火1・2	05025	情報Ⅱ①	岩谷 靖					59			59
後期	火7・8	05067	情報Ⅱ②	鈴木 裕史	1	1	1	2	21	4		30
後期	木3・4	05156	情報Ⅱ③	小野口 一則					62			62
後期	木9・10	05221	情報Ⅱ④	水田 智史	1	2			3	2		8
後期	金9・10	05296	情報Ⅱ⑤	松谷 秀哉	13	3	1		2			19
後期	木7・8	05201	保健体育学の基礎(A)①	麓 信義・他		137			1			138
後期	木7・8	05202	保健体育学の基礎(A)②	清水 紀人・他		115						115
後期	木3・4	05157	国際地域を考える(C)	林 明	106	16	29	28	15	19		213
後期	木5・6	05176	国際社会を考える(B)	富田 晃	64	23	46		20	6		159
後期	金7・8	05282	国際交流を考える(B)	小山 宣子	7	8	2	8	9	6	9	49
後期	火3・4	05029	国際交流を考える(D)	西東 克介	14	7		1	4	1		27
後期	火3・4	05028	国際地域を考える(I)	杉山 祐子	11	9	4	6	7	4		41
後期	木5・6	05177	21世紀の環境問題(A)③	児玉 安正・他	20	9	4					33
後期	木5・6	05178	21世紀の環境問題(A)④	児玉 安正・他					13	23		36
後期	火3・4	05030	21世紀の環境問題(A)⑤	伊藤 大雄・他	20	30	19	37				106
後期	火3・4	05031	21世紀の環境問題(A)⑥	伊藤 大雄・他					36	35		71
後期	火1・2	05026	環境と生活(D)	細川 洋一郎・他	13	6	7	51	39	17		133
後期	火3・4	05033	環境と社会(A)	須藤 弘敏・他	36	16	1	1	3	3		60
後期	火3・4	05032	環境と生活(E)	大友 良光・他	9	7	5	3	20	2		46
後期	木3・4	05159	環境と資源(A)	園木 和典・他	35	5		6	13	47		106
後期	木3・4	05160	環境と資源(D)	石川 隆二・他	6	1		6	6	10		29
後期	木3・4	05161	環境と資源(E)	萩原 守	1		1		5	1		8
後期	木5・6	05179	環境と資源(F)	村岡 洋文・他	25	27	3		36	8		99
後期	火5・6	05053	環境との共生(A)	藤崎 浩幸・他	20	21	5	16	10	19		91
後期	木3・4	05162	環境との共生(D)	宮永 崇史・他	20	17	5	14	17	4		77
後期	木5・6	05180	環境との共生(E)	佐藤 崇之	3	1			2	3		9
後期	木5・6	05181	生活習慣と健康(M)	萱場 広之・他	23	18			14	17		72
後期	金7・8	05283	生活習慣と健康(N)	山辺 英彰・他	64	58		50	25	21		218
後期	木5・6	05182	メンタルヘルス(A)	和田 一丸・他	45	42			22	10		119
後期	火3・4	05034	メンタルヘルス(B)	西沢 義子・他	14	7		20	6	3		50
後期	金5・6	05270	最新医学の現状(M)	高井 良尋・他	66	14		39	94	53		266
後期	金7・8	05284	最新医学の現状(N)	高井 良尋・他	66	47		69	39	34		255
後期	火5・6	05054	最新医学の現状(L)	高井 良尋・他	36	41		71	31	28		207
後期	火3・4	05035	運動とリハビリテーション(B)	吉田 英樹・他	5	27		16	9	1	1	59
後期	火5・6	05055	運動とリハビリテーション(C)	野田 美保子・他	16	14		19	8	16		73
後期	火3・4	05036	運動とリハビリテーション(F)	千葉 正司	1			5	5			11
後期	火5・6	05056	科学・技術の発達(C)	糠塚 いそし・他	5	1	8	3	21	5		43
後期	木5・6	05183	科学・技術の最前線(K)	佐藤 松夫	5	10	6		47	9		77
後期	火3・4	05037	生活の科学・技術(B)②	鷲坂 将伸・他	18	15	1	24	48	39		145

平成24年度(2012)

学期	曜日・時限	履修コード	授業科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	その他	総計
後期	金5・6	05271	生活の科学・技術(F)	荒井 一成	2	12		1	2	9		26
後期	火5・6	05057	生物の科学・技術(A)②	杉山 修一	45	6	40	37	13	38		179
後期	木5・6	05184	生物の科学・技術(A)③	川崎 通夫・他	26	20	3		16	31		96
後期	木3・4	05163	生物の科学・技術(B)③	千田 峰生・他	25	2	2	20	2	44		95
後期	火5・6	05058	社会と経済(D)	小谷田 文彦	81	27	15	22	54	17		216
後期	金7・8	05285	社会と経済(A)②	池田 憲隆	19	6	1	1	15	2		44
後期	木3・4	05164	社会と経済(B)	黄 孝春	34	6	4	1	6	8	3	62
後期	火3・4	05038	社会と経済(J)	金目 哲郎	24	2	6	1	3			36
後期	火3・4	05039	企業と経営(A)	佐々木 純一郎	5	4	1		3	3	1	17
後期	金7・8	05286	市民生活と地域社会(D)	大坪 正一	32	19		8	5	3		67
後期	木5・6	05185	市民生活と地域社会(E)	児山 正史	15	3	1		2	4		25
後期	金5・6	05272	市民生活と地域社会(I)	飯 考行・他	36	3	1	1	8	4		53
後期	金5・6	05273	社会とジェンダー(A)	羽渕 一代・他	102	19	1	20	25	14		181
後期	金5・6	05274	芸術の世界(A)①	島 一夫	46	12	2	26	26	16		128
後期	木5・6	05186	芸術の世界(A)②	石出 和也	5	35	2		5	2		49
後期	火3・4	05040	芸術の世界(B)①	足達 薫	30	18	7	9	22	5		91
後期	火3・4	05041	芸術の世界(D)	柴田 英樹・他	11	11	12	6	34	5		79
後期	木3・4	05165	思想・文学の世界(C)	山田 史生	38	39	2	24	42	17	2	164
後期	金5・6	05275	くらし・歴史・文化(E)	齊藤 利男・他	77	5	1	11	16	26		136
後期	木5・6	05187	くらし・歴史・文化(G)	諏訪 淳一郎	15	2	18		6	2		43
後期	木5・6	05188	人を育む営み(F)	武内 裕明・他	10	16	7		9	8		50
後期	木3・4	05166	人を育む営み(G)	深作 拓郎・他	73	41	35	24	39	12		224
後期	金5・6	05276	人を育む営み(I)	工藤 せい子・他	52	9		94	34	23		212
後期	火5・6	05059	人を育む営み(A)	安藤 房治・他	28	50	23	25	18	13		157
後期	金7・8	05287	人間の尊厳(B)	川崎 くみ子・他	22	18	6	27	13	7		93
後期	木9・10	05222	人間のこれから(B)	大谷 良光・他	14	39			2	1		56
後期	金5・6	05277	人間のこれから(D)	藤田 昇治	27	1		8	4	8		48
後期	木3・4	05167	人を育む営み(J)	葛西 敦子	16	32	11	27	12	4		102
後期	火3・4	05042	人を育む営み(K)	高瀬 雅弘	12	30	4	9	6	3		64
後期	集中	05299	人間のこれから(E)	猪瀬 武則	12	2		9	6	6		35
後期	火3・4	05043	社会と私ー仕事を通して考える(A)ー	小磯 重隆・他	33	32	40	37	42	11	1	196
後期	火7・8	05068	社会と私ーコミュニケーション力(D)①-	小磯 重隆	9	3	5	2	9	3		31
後期	火5・6	05060	社会と私ーコミュニケーション力(D)②-	小磯 重隆	10	7	1	1	8	5		32
後期	水3・4	05132	食育概論	石塚 哉史・他	93	95	4		77	9		278
後期	金9・10	05297	東日本大震災復興論(B)	李 永俊・他	36	7		4	13	3		63
後期	木3・4	05168	フィールドワークの基礎	羽渕 一代	18	2		6	9	5		40

7 21世紀教育授業運営・担当評価

弘前大学においては、教養教育のカリキュラムと実施体制を大幅に改革し、平成14年度から「弘前大学「21世紀教育」」を実施している。同時に、「21世紀教育」の責任ある実施体制と授業担当の濃淡に伴う不公平感を払拭し、「全学担当制」が円滑に展開することを目指して、教育評価の一つの試みとして授業運営・担当評価を研究費配分という形で行うことが弘前大学全学教育協議会で承認され、評議会で決定された。（弘前大学「21世紀教育」実施要綱、平成17年2月18日発行参照）

本年度も、21世紀教育センター運営委員会は「21世紀教育授業運営・担当評価に係る経費」の必要性を確認し、12,000千円の予算配分が認められた。その具体的な配分方針及び配分方法については、21世紀教育センター運営委員会で原案が承認された。

以下に、「平成24年度 21世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針について」、及び「21世紀教育授業運営・担当評価実施要項」を掲載し、その若干の説明を記す。

1) 平成24年度 21世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針

(1) 21世紀教育推進経費に係る配分額の決定方針について

平成24年7月19日 21世紀教育センター

1 科目主任について

- (1) 21世紀教育推進経費から科目主任一人につき45,000円を配分する。
- (2) 科目主任を複数担当している場合においても、配分額は1科目分のみとする。
- (3) 期間が3ヵ月以上11ヵ月以下の科目主任については、科目主任配分額を12で除した額に月数を乗じて得た額を配分額とする。
- (4) 年度途中で科目主任を辞めた（予定を含む）場合は配分しない。

2 基準時間を超える授業担当者について

- (1) 評価時間は、講義担当時間数と試験監督担当時間数を加算したものとし、基準時間を超えた評価時間数に対して配分する。
ただし、休講した場合については、原則として補講するものとする。
- (2) 21世紀教育推進経費から、1及び3の配分額を差し引いた額を、配分総額とし、配分総額を基準時間を超えた時間数の総和で割った金額を配分単価とする。

3 カリキュラム開発の推進者

- (1) 1件につき50,000円を配分する。
- (2) 年間4件を上限とする。
※今年度の申請件数はなし。

(2) 学部等別基準時間を超える時間数等一覧

学 部 等 名	基準時間を超える時間数	総担当時間数	教員 現員数※	基準時間に満たない教員数	左記のうち 授業を担当 していない教員数
人 文 学 部	1,070	5,082	83	7	5
教 育 学 部	1,197	4,394	94	25	5
医 学 部 医 学 科	170	822	85	70	41
医 学 部 保 健 学 科	356	1,632	64	31	4
附 属 病 院	0	62	47	47	35
理 工 学 部	972	3,142	79	8	7
農 学 生 命 科 学 部	516	2,018	59	16	5
21世紀教育センター	0	30	1		
総合情報処理センター	0	30	1		
生涯学習教育研究センター	88	148	2		
地域共同研究センター	0	0	1	1	1
国際交流センター	490	760	10	1	1
保健管理センター	0	64	3	2	0
学生就職支援センター	130	160	1		
北日本新エネルギー研究センター	0	26	8	8	0
白神自然環境研究所	0	10	2	2	0
被ばく医療総合研究所	40	184	3	0	0
大学院地域社会研究科	14	80	3	1	0
計	5,043	18,644	546	219	104
助 教	606	604			
合 計	5,649	19,248			

※「教員現員数」は、平成24年1月1日現在の数である。

なお、「教員現員数」には、助教・助手を含めない。

(3) 予算額

区 分	員 数	単 価	金 額	備 考
○予算要求額	人	円	円	
1 科目主任配分費	95	45,000	4,275,000	
2 基準時間を超える授業担当者配分額			7,525,000	
3 カリキュラム開発推進者配分費	4	50,000	200,000	
○予算配分額			12,000,000	

(4) 配分額

区 分	員 数	単 価	金 額	備 考
1 科目主任配分費	人	円	円	
①言語コミュニケーション 実習及びスポーツ・体育 実技の科目主任	90	45,000	4,050,000	
②その他の科目主任 在任期間（12月）	32	45,000	1,440,000	
2 基準時間を超える授業担当者配分費	58	45,000	2,610,000	
3 カリキュラム開発推進者配分費	5,649 時間	1,407	7,948,143	
合 計	0件		0	
			11,998,143	残額 1,857円

(5) 21 世紀教育推進経費学部等別配分額一覧

(単位：千円)

学 部 等 名	科目主任 配 分 額	基準時間を超える 担当者配分額	計	備 考
人 文 学 部	1,575,000	1,505,490	3,080,490	
教 育 学 部	1,215,000	1,684,179	2,899,179	
医学部医学科	180,000	301,098	481,098	
医学部保健学科	180,000	832,944	1,012,944	
附 属 病 院				
理 工 学 部	450,000	1,674,330	2,124,330	
農学生命科学部	315,000	726,012	1,041,012	
21 世紀教育センター				
総合情報処理センター				
生涯学習教育研究センター	45,000	123,816	168,816	
地域共同研究センター				
国際交流センター	45,000	689,430	734,430	
保健管理センター	45,000		45,000	
学生就職支援センター		182,910	182,910	
北日本新エネルギー研究センター				
白神自然環境研究所				
被ばく医療総合研究所		208,236	208,236	
大学院地域社会研究科		19,698	19,698	
計	4,050,000	7,948,143	11,998,143	

注) 基準時間を超える担当者には、助教を含む。

平成 24 年度 21 世紀教育授業運営・担当評価に係る経費配分は、配分方針として、①「21 世紀教育授業運営・担当評価実施要項」及び②「平成 24 年度 21 世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針について」に従った。配分の予算額は 1200 万円であった。配分の対象は、「基準時間を超えている授業担当者」（助教及び助手の授業時間はすべて評価時間となる）と「カリキュラム開発推進者」（今年度は該当者なし）と「科目主任」である。基準時間数は、言語コミュニケーション実習が「年間 120 授業時間」、スポーツ・体育実技は「年間 90 授業時間」、それ以外の科目は「年間 30 授業時間」である。「基準時間を超えている授業担当者」の全評価時間数は 5,649 時間であり、合計 7,948,143 円となった。科目主任には在任期間に応じて配分した。「言語コミュニケーション実習」及び「スポーツ・体育実技」の科目主任は、授業実績のない者 1 人を除く 32 人全員 12 ヶ月在任で、合計 1,440,000 円、その他の科目主任 58 人全員 12 ヶ月在任で、合計 2,610,000 円となり、科目主任配分費総額は 4,050,000 円となった。経費総額は 11,998,143 円となり、予算額との差額は 1,857 円であった。

2) 21 世紀教育授業運営・担当評価実施要項

平成 22 年 10 月 21 日
21 世紀教育センター
運営委員会制定

(趣旨)

第 1 21 世紀教育の授業運営・担当評価の実施については、「21 世紀教育の授業運営・担当評価の実施について」(平成 14 年 3 月 19 日評議会承認)に基づき、この要項の定めるところにより行うものとする。

(科目主任の評価基準)

第 2 科目主任の評価基準は、次のとおりとする。

- (1) 当該年度の 10 月 1 日に科目主任である者
- (2) 当該年度に 3 か月以上科目主任であった者

(基準時間を超える授業担当者の評価基準)

第 3 基準時間を超える授業担当者の評価基準は、次のとおりとする。

- (1) 言語コミュニケーション実習の科目主任については、基準時間(年間 120 授業時間)を超える時間数
- (2) スポーツ・体育実技の科目主任については、基準時間(年間 90 授業時間)を超える時間数
- (3) 上記(1)、(2)以外の教員については、基準時間(年間 30 授業時間)を超える時間数

(カリキュラム開発の推進者の評価基準等)

第 4 カリキュラム開発の推進者の評価基準は、次のとおりとする。

当該年度の 10 月 1 日から過去 1 年間の間に、カリキュラム開発を推進したものと 21 世紀教育センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)が認める者

2 カリキュラム開発に係る申請方法、審査方法、申請書の書式等は、運営委員会が別に定める。

(基礎科学実験)

第 5 基礎科学実験については、担当時間数の 3 分の 2 を授業実施時間数とする。

(助教及び助手に対する評価)

第 6 21 世紀教育を担当する助教及び助手については、担当時間数に応じて評価する。

(推進経費の配分額の決定)

第 7 評価対象者への 21 世紀教育推進経費(以下「推進経費」という。)の配分額については、当該年度における推進経費の配分予算額に基づき、点検・評価専門委員会(以下「専門委員会」という。)において算定の上、運営委員会が決定する。

- 2 基準時間を超える担当者への配分額算定に当たっては、専門委員会が基準時間を超える時間数の確認を行う。
- 3 当該年度の在任期間が1年未満の科目主任への配分額は、月割り計算とする。

(推進経費の配分時期等)

第8 評価対象者への推進経費の配分時期は、次のとおりとする。

- (1) 科目主任
配分時期は、当該年度の10月とする。
- (2) 基準時間を超える授業担当者
当該年度の10月に当該年度における授業時間数を確認の上、11月に配分する。
- (3) カリキュラム開発の推進者
配分時期は、当該年度の11月とする。
- (4) 助教及び助手
配分時期は、上記(2)と同様とする。

(退職者及び他大学等への転任者への経費配分)

第9 評価対象者で当該年度内に退職予定の者及び他大学等へ転任予定の者への推進経費の配分については、配分時期以降の本学在任期間を勘案し、専門委員会において検討の上、決定するものとする。

(その他)

第10 この要項に定めるもののほか、本評価の実施に関し必要な事項は、専門委員会の義を経て、運営委員会が別に定める。

附 記

この要項は、平成17年2月18日から実施し、16年4月1日から適用する。

附 記

この要項は、平成19年12月20日から実施する。

附 記

この要項は、平成22年10月21日から実施する。

8 あとがき

今年度からの新しい試みとして、本学の非常勤講師（21世紀教育担当）を対象としたFD研修会である、「21世紀教育科目に関する研修会および意見交換会」が、3月18日（月）13:00～16:00に開催されました。このFD研修会では、理事・教育担当副学長の中根明夫先生のご挨拶に続いて、21世紀教育センター長の木村宣美先生が「21世紀教育科目の運営体制」を概説し、21世紀教育センター教務専門委員長の藤崎浩幸先生が「成績評価および不正行為への対応について」説明しました。非常勤講師向けのFD研修会の重要性は、彼らが本学の教育の質と水準を保っている一翼であることから、論じるまでもありません。よって次年度以降も、このような望ましい研修会を維持・発展させていくことに、21世紀教育センターは努力していきたいと存じます。

それから、3月26日（火）13:30～16:10には、昨年度に続いて、平成24年度弘前大学TA研修会「TAの経験から相互に学ぶ研修会」が開催されました。非常勤講師と同じく、TAである大学院生にも、本学の学士課程教育の質と水準を維持・向上させていく上での、重要な役回りを演じてもらわなければなりません。TAを単なる「お小遣い稼ぎ」と考えるのではなく、「教育分担者」と広く見なしてもらえるためにも、TA研修会は重要な機会の提供となりました。

また例年通り、弘前大学FDシンポジウムを11月3日（土）13:00～17:40に、弘前大学FDワークショップを6月9日（土）～10日（日）と、12月8日（土）9:00～17:00に、弘前大学高大連携シンポジウムを2月5日（火）13:00～15:00に、それぞれ開催しました。その詳細は、本報告書、21世紀教育センターニュース第21号、21世紀教育フォーラム第8号などをご参照ください。

末筆ながら、今年度の報告書の作成において、多くの教職員にご協力いただいたことに深謝いたします。来年度以降の活動につきましても、変わらぬご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

田中正弘（21世紀教育センター）

MEMO